

# いきいき東郷21 (第2次)

## 中間評価結果報告書

平成30年1月

東郷町



## ～目 次～

はじめに.....	1
1. 中間評価結果報告書について.....	1
2. 中間評価の方法について.....	1
3. 第2次計画について.....	3
4. 健康寿命.....	6
第1章 健康づくり・食育の指標評価.....	7
1. 健康増進分野の指標.....	8
(1) 運動・身体活動.....	8
(2) 休養・こころの健康.....	11
(3) たばこ・アルコール.....	20
(4) 歯・口腔の健康.....	23
(5) 健康管理.....	26
(6) 栄養・食生活.....	28
2. 食育分野の指標.....	30
(1) 食を通じた健康づくり.....	30
(2) 食で育む豊かなこころづくり.....	32
(3) 環境に配慮した食の推進.....	37
(4) 食育を支える取組.....	40
第2章 本町の指標取組結果と課題及び今後の方向性.....	41
1. 健康増進分野.....	41
(1) 運動・身体活動.....	41
(2) 休養・こころの健康.....	43
(3) たばこ・アルコール.....	45
(4) 歯・口腔の健康.....	46
(5) 健康管理.....	47
(6) 栄養・食生活.....	48
2. 食育分野.....	49
(1) 食を通じた健康づくり.....	49
(2) 食で育む豊かなこころづくり.....	50
(3) 環境に配慮した食の推進.....	52
(4) 食育を支える取組.....	53



# はじめに

## 1. 中間評価結果報告書について

本町では、平成 14 年度に「いきいき東郷 21」（以下「第 1 次計画」という。）を策定し、住民の健康課題を把握し、ライフステージに応じた健康づくりを進めてきました。その後、取組を進める中で見えてきた課題を踏まえ、平成 24 年度に「いきいき東郷 21（第 2 次）」（以下「第 2 次計画」という。）を策定しました。

第 2 次計画は、平成 25 年度～平成 34 年度（2013 年度～2022 年度）を計画期間としており、平成 29 年度が計画期間の中間年度となっています。そのため、現在までの計画の進捗を確認し、推進できている取組や不足している資源等を洗い出すことで、平成 30 年度～平成 34 年度（2018 年度～2022 年度）の健康づくり、食育の推進がより図られるよう、「いきいき東郷 21（第 2 次）中間評価結果報告書」（以下、「本報告書」という。）を作成しました。

## 2. 中間評価の方法について

第 2 次計画では、大きく「健康増進」の 6 分野と「食育」の 5 分野に、施策分野を分けています（健康増進「栄養・食生活」分野は食育分野の一部）。また、これらの施策の推進により、どのような効果があったか、住民へのアンケート等によって「指標」を設定することで評価し、計画の進捗を図っています。

そこで、本報告書については、第 2 次計画策定時点（平成 24 年度）と平成 29 年度時点の指標の数値を比較し、その増減をみることによって評価することとします。加えて、本報告書の作成にあたって、計画の推進体である「いきいき東郷 21 推進協議会」の委員の方々にヒアリング調査を実施しています。

本報告書では、アンケート及びヒアリング調査の結果を踏まえ、本町の健康づくり、食育のための取組を評価し、課題を整理しました。また、評価・課題を踏まえ、今後の方向性を掲載しました。

## (1) アンケートについて

アンケートは、第2次計画の前期期間における指標の進捗を確認し、推進できている活動や不足している活動を洗い出すことで、平成30年度～平成34年度間の健康づくり、食育の推進がより図られるよう実施しました。

### ●調査実施概要

調査対象	住民基本台帳から無作為に抽出した町内在住の男女 計3,400人
調査期間	平成29年8月24日～9月15日
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査対象抽出方法	第2次計画を策定（平成24年度）するために実施したアンケートのライフステージごとの抽出数及び比率を参考にして、配布数を設定しました。

### ●回収結果

調査対象者	配布数 [A]	回収数 [B]	無効票 [C]	有効票 [B-C]	有効票回収率 (%)
(1)小学2年生	204	84	0	84	41.2
(2)小学5年生	204	85	0	85	41.7
(3)中学2年生	204	77	0	77	37.7
(4)就学前児童保護者	176	99	0	99	56.3
(5)小学2年生保護者	204	83	0	83	40.7
(6)小学5年生・中学2年生保護者	408	158	0	158	38.7
(7)町民(16～64歳)	1,400	455	1	454	32.4
(8)町民(65歳以上)	600	379	1	378	63.0
全体	3,400	1,420	2	1,418	41.7

## (2) ヒアリング調査について

第2次計画の推進にあたって、本町の健康・食育に関わる庁内外の関係機関・団体から構成される「いきいき東郷21推進協議会」を設置しています。本報告書の作成においては、協議会の委員の方々にヒアリング調査を実施し、現状や今後の課題、関係機関どうしの連携の意向等についてうかがいました。

ヒアリング調査は、町内における健康・食育に関する取組の「現場の声」として、今後本町が注力すべき分野や活動を洗い出すために実施しました。

### ●調査実施概要

調査対象	「いきいき東郷21推進協議会」の委員 計24名
調査期間	1回目：平成29年7月11日～8月18日 2回目：平成29年10月16日～10月31日
調査方法	協議会における直接配布・メール又は直接回収。

### 3. 第2次計画について

#### (1) 計画策定の趣旨

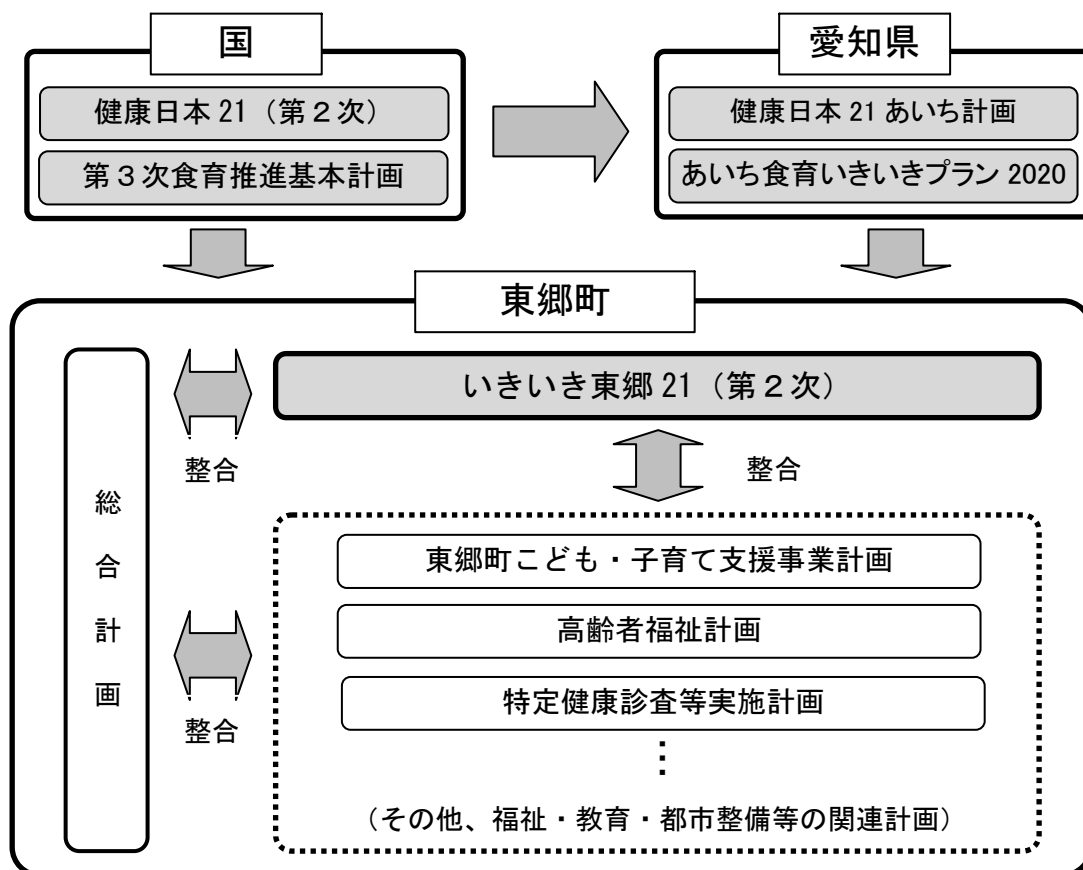
近年、全国的に健康を取り巻く状況は変化しています。食生活の乱れや運動不足などを背景に、がん、心臓病、脳卒中などの生活習慣病が増加しています。また、高齢化の進行に伴い、認知症や寝たきりなどで介護を必要とする人も増えてきています。さらには、働く世代のストレスの増大や睡眠不足なども問題となっており、それに伴う自殺者の増加などは深刻な社会問題になっています。ライフスタイルの多様化などから子どもの生活も変化しており、朝食欠食率の増加や、外で遊ぶ機会の減少による運動不足の深刻化など、幼い頃からの健康課題が顕著になっています。

本町では、こうした各種健康・食育に関わる課題に対応するため、平成24年度に第2次計画を策定しました。

#### (2) 計画の位置付け

第2次計画は、健康増進法第8条第2項に定められた市町村健康増進計画、食育基本法第18条第1項に定められた市町村食育推進計画です。「東郷町総合計画」を上位計画とし、関連する他の計画と整合性を図りながら計画を策定しました。

また、国や愛知県の計画とも整合性を図りながら計画を策定しました。



### (3) 計画の根拠法

#### ＜健康増進法（抜粋）＞

(都道府県健康増進計画等)

第8条 都道府県は、基本方針を勘案して、当該都道府県の住民の健康の増進の推進に関する施策についての基本的な計画（以下「都道府県健康増進計画」という。）を定めるものとする。

2 市町村は、基本方針及び都道府県健康増進計画を勘案して、当該市町村の住民の健康の増進の推進に関する施策についての計画（以下「市町村健康増進計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

#### ＜食育基本法（抜粋）＞

(市町村食育推進計画)

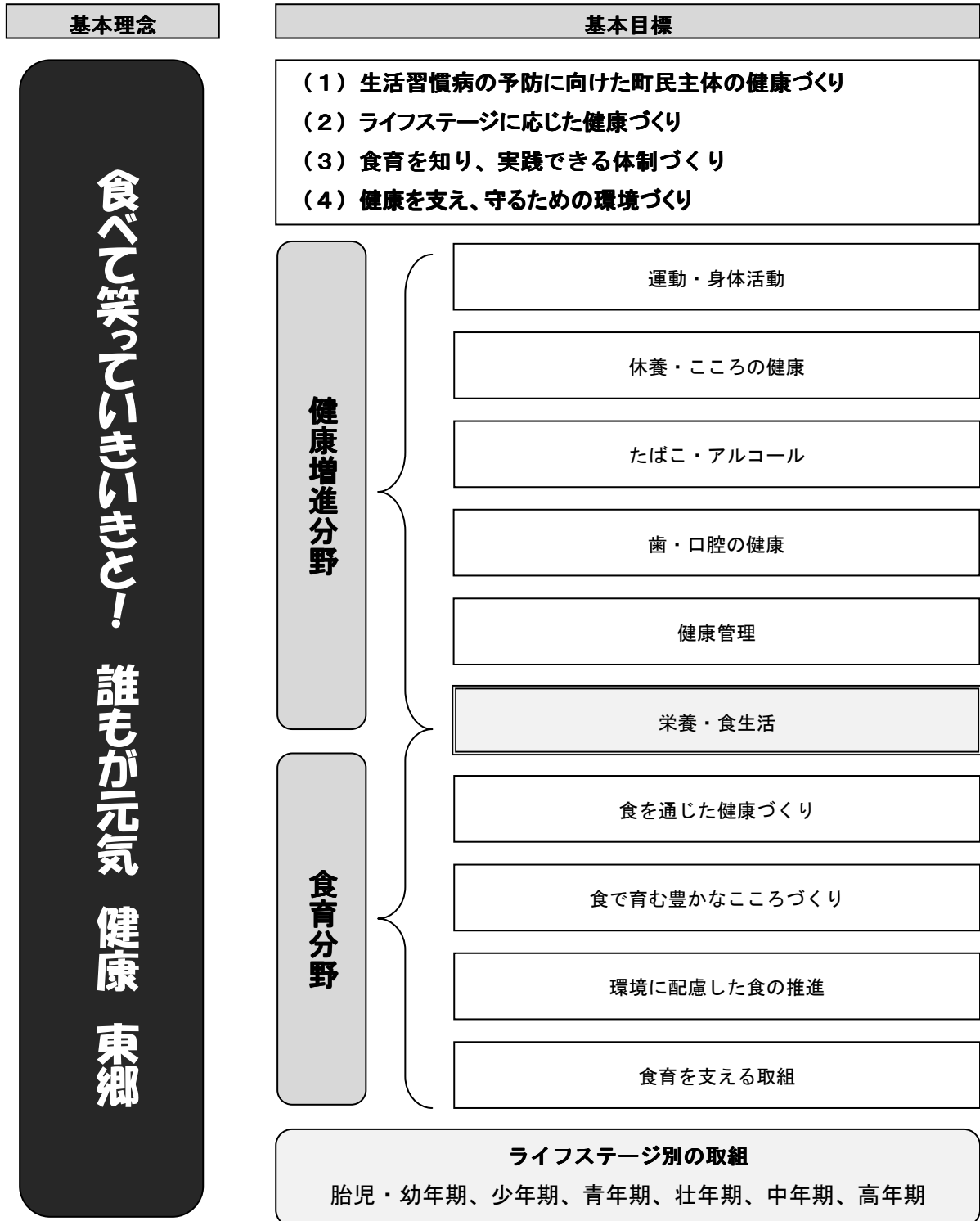
第18条 市町村は、食育推進基本計画（都道府県食育推進計画が作成されているときは、食育推進基本計画及び都道府県食育推進計画）を基本として、当該市町村の区域内における食育の推進に関する施策についての計画（以下「市町村食育推進計画」という。）を作成するよう努めなければならない。

2 市町村（市町村食育推進会議が置かれている市町村にあつては、市町村食育推進会議）は、市町村食育推進計画を作成し、又は変更したときは、速やかに、その要旨を公表しなければならない。



#### (4) 計画の体系

本計画では、健康増進6分野と食育5分野により施策を進めていきます。健康増進「栄養・食生活」分野については食育分野の一部として位置付けています。



## 4. 健康寿命

国が平成 25 年 3 月に策定した「健康日本 21（第 2 次）」では、基本的な方向の一つに「健康寿命<sup>※1</sup>の延伸と健康格差<sup>※2</sup>の縮小」が掲げられており、本町でも男女別の健康寿命を算出しました。

本報告書においても、近年の本町の健康寿命を算出し、第 2 次計画策定時からどのように推移しているかを比較したところ男女ともに伸びていました。

【本町の健康寿命の比較】

	健康寿命		平均寿命	
	男性	女性	男性	女性
本報告書作成時 (平成 29 年)	80.90 歳	84.55 歳	82.30 歳	87.71 歳
第 2 次計画策定時 (平成 24 年)	79.86 歳	84.44 歳	81.12 歳	87.29 歳

健康寿命の算出は「健康寿命の算定方法の指針」のワークシートに以下の内容を入力し算出しました。

### 【第 2 次計画策定時】

- 人口…平成 22 年 10 月 1 日の国勢調査の数値×3
- 死亡…平成 21～23 年の 3 年間の合計数（人口動態統計）
- 不健康割合の分母…平成 22 年 10 月 1 日の国勢調査の数値
- 不健康割合の分子…平成 22 年 9 月 30 日の要介護 2～5 の数（国保連より報告）

### 【本報告書作成時】

- 人口…平成 27 年 10 月 1 日の国勢調査の数値×3
- 死亡…平成 26～28 年の 3 年間の合計数（人口動態統計）
- 不健康割合の分母…平成 27 年 10 月 1 日の国勢調査の数値
- 不健康割合の分子…平成 27 年 9 月 30 日の要介護 2～5 の数（介護保険事業状況報告）

※ 1 健康寿命：介護を受けたり病気で寝たきりにならず、自立して健康に生活できる年齢。

※ 2 健康格差：収入、学歴、職業などの社会経済要因による人々の健康の格差。

# 第1章 健康づくり・食育の指標評価

## (1) 指標評価の見方について

指標の評価については、「健康増進」の6分野と「食育」の5分野別に、表でまとめており、第2次計画策定時の平成24年度と平成29年度の指標の数値を比較し、推移を掲載しています。また、指標以外に今後の健康づくりや食育の推進を図る上での参考になるアンケート結果について、表及びグラフを掲載しています。

表では参考として、第1次計画策定時の平成13年度の指標の数値も掲載しています。推移の欄は、以下のように記載しています。

### アンケートの結果により評価している指標

- 平成24年度から平成29年度までの指標の数値が±3ポイント以上の差：**上昇** or **下降**
- 平成24年度から平成29年度までの指標の数値が±3ポイント未満の差：**横ばい**
- 平成24年度から平成29年度までの指標の数値が上昇し、100%となる：**上昇**

### アンケートの結果以外により評価している指標（「★」付き）

- 平成24年度から平成29年度までの指標の数値との比較：**上昇（増加）** or **下降（減少）**  
「★」付きの指標は、「総合型地域スポーツクラブの設置」、「う蝕罹患率」、「特定健康診査受診率」等、アンケート結果以外により評価している指標で、関係機関からの報告に基づく数値になります。

## (2) その他、中間結果報告書をみる際の注意点

- 評価指標については第2次計画の49P～54Pまでの指標を比較しています。
- 回答結果の割合（%）はサンプル数（集計対象者総数）に対してそれぞれの回答数の割合を小数点第2位以下で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表についても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は回答数に対する選択肢ごとの回答数のそれぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ及び表のn数（number of case）は、サンプル数（集計対象者総数あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人数）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 本文中の中で、次のような指標の対象者は、それぞれ以下の年齢区分を指しています。

就学前児童：0～6歳    少年期：7～15歳    青年期：16～24歳  
壮年期：25～44歳    中年期：45～64歳    高年期：65歳以上

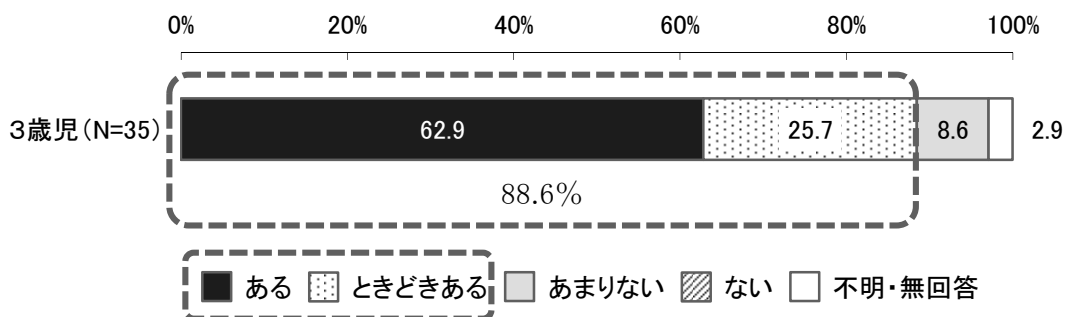
## 1. 健康増進分野の指標

### (1) 運動・身体活動

	指標	対象者	第1次計画		第2次計画			推移
			H13 調査値	H24 目標値	H24 現状値	H34 目標値	H29 現状値	
子どもの運動習慣	外遊びの習慣のある者の割合	3歳児	68.5%	増加へ	93.6%	増加へ	88.6%	下降
	放課に外で遊ぶ者の割合	小学2年生	44.1%	増加へ	84.6%	増加へ	83.7%	横ばい
		小学5年生	42.6%	増加へ	83.0%	増加へ	81.6%	横ばい
大人の運動習慣	1日平均30分以上歩く者の割合	16～64歳	50.5%	80%	46.7%	71.5%	45.6%	横ばい
		65歳以上男性	60.6%	80%	55.2%	76.1%	52.0%	下降
		65歳以上女性	36.2%	70%	53.4%	71.2%	57.7%	上昇
	1回30分以上の運動を週2回以上1年以上継続する者の割合	16～64歳	21.3%	30%	18.6%	23.8%	22.5%	上昇
		65歳以上男性	46.2%	60%	50.0%	54.6%	46.3%	下降
		65歳以上女性	25.1%	40%	44.7%	53.9%	50.2%	上昇
	★総合型地域スポーツクラブの設置	—	—	—	0団体	1団体	1団体	増加

問 お子さんは外遊びの習慣がありますか。(〇は1つ)

3歳児の外遊びの習慣がある者の割合(「ある」「ときどきある」の合算)は88.6%で、平成24年度と比べ5.0ポイント下降しています。

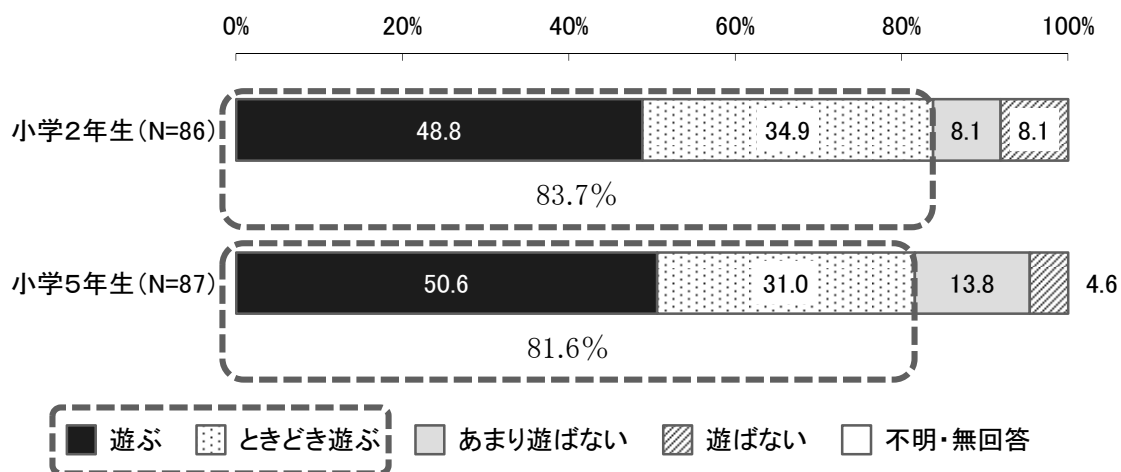


平成24年度現状値	平成24年度との比較
3歳児 : 93.6% (「ある」「ときどきある」の合算)	3歳児 :  下降

問 授業と授業のあいまに、そとであそんでいますか。(〇は1つ) <小学2年生>

問 学校で放課に外で遊んでいますか。(〇は1つ) <小学5年生>

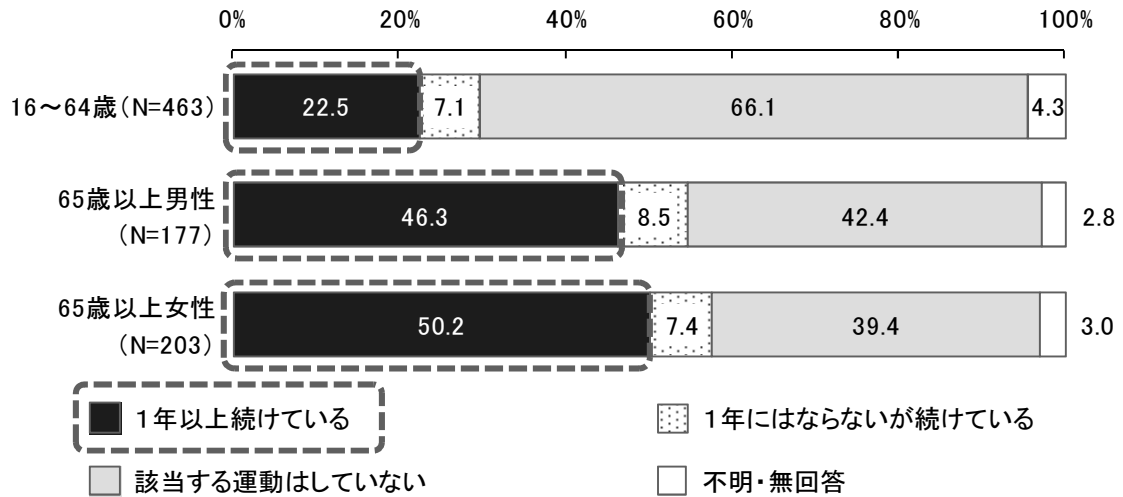
放課に外で遊ぶ者の割合(「遊ぶ」「ときどき遊ぶ」の合算)は、小学2年生で83.7%、小学5年生で81.6%となっており、平成24年度と比べいずれもほぼ横ばいとなっています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
小学2年生 : 84.6% (「遊ぶ」「ときどき遊ぶ」の合算)	小学2年生 :  横ばい
小学5年生 : 83.0% (「遊ぶ」「ときどき遊ぶ」の合算)	小学5年生 :  横ばい

問 1回 30 分以上の運動を週2回以上続けていますか。(○は1つ)

1回 30 分以上の運動を週 2 回以上 1 年以上継続する者の割合は 16～64 歳で 22.5%、65 歳以上男性で 46.3%、65 歳以上女性で 50.2%となっています。平成 24 年度と比べ 16～64 歳は 3.9 ポイント上昇、65 歳以上男性は 3.7 ポイント下降、65 歳以上女性は 5.5 ポイント上昇しています。



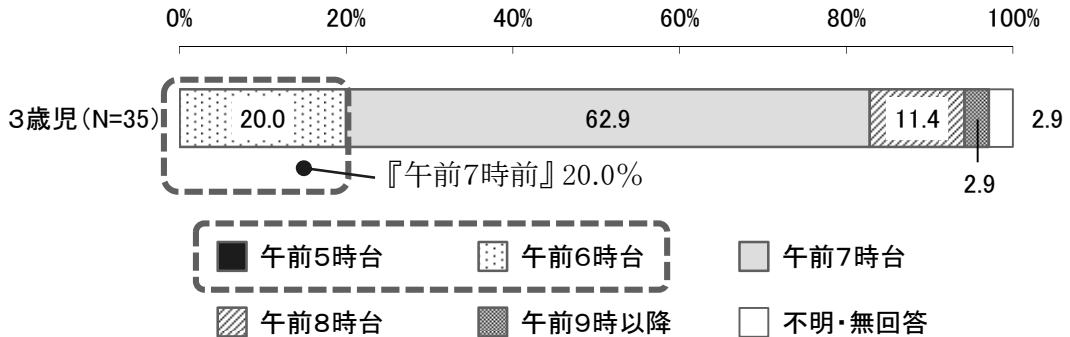
平成 24 年度現状値	平成 24 年度との比較
16～64 歳 : 18.6%	16～64 歳 :  上昇
65 歳以上男性 : 50.0%	65 歳以上男性 :  下降
65 歳以上女性 : 44.7%	65 歳以上女性 :  上昇

## (2) 休養・こころの健康

	指標	対象者	第1次計画		第2次計画			推移
			H13 調査値	H24 目標値	H24 現状値	H34 目標値	H29 現状値	
子どもの睡眠	午前7時前に起きる者の割合	3歳児	6.8%	増加へ	19.0%	増加へ	20.0%	横ばい
育児	子どもの話をよく聞く親の割合	3歳児の母	91.0%	100%	95.2%	100%	100%	上昇
		3歳児の父	75.4%	100%	87.3%	100%	91.4%	上昇
	子どもと遊ぶ親の割合	3歳児の父	55.7%	80%	90.5%	増加へ	94.3%	上昇
	子どもをほめる親の割合	3歳児の母	82.1%	増加へ	95.2%	増加へ	97.1%	横ばい
	子育てが楽しいと思う母親の割合	3歳児の母	85.1%	100%	90.5%	100%	94.3%	上昇
	妊娠～出産を快適に過ごせた者の割合	妊婦 ※H29は就学前児童の母	53.8%	100%	84.6%	100%	82.8%	横ばい
子どもの睡眠	1日7時間以上睡眠をとる者の割合	小学2年生	100.0%	100%	97.4%	100%	100%	上昇
		小学5年生	100.0%	100%	98.8%	100%	100%	上昇
		中学2年生	77.6%	増加へ	77.0%	増加へ	87.1%	上昇
子どものこころの健康	自分の命を大切に思う者の割合	小学5年生	98.7%	100%	96.3%	100%	98.8%	横ばい
		中学2年生	92.9%	100%	95.1%	100%	97.4%	横ばい
	自分のことを家族が大切に思っていると思う者の割合	小学5年生	94.2%	100%	93.9%	100%	92.0%	横ばい
		中学2年生	87.3%	100%	96.7%	100%	96.1%	横ばい
	相談相手がいる者の割合	中学2年生	70.6%	増加へ	95.1%	増加へ	87.0%	下降
大人の睡眠・休養	日頃とっている睡眠時間で休養がとれている者の割合	16～64歳	39.0%	43%	68.5%	78.7%	62.2%	下降
		65歳以上	63.3%	70%	90.1%	96.9%	83.1%	下降
大人のこころの健康	ストレスを解消できている者の割合	16～64歳	63.2%	70%	62.1%	74.3%	62.8%	横ばい
		65歳以上	63.3%	70%	74.8%	81.0%	76.6%	横ばい
	趣味を持っている者の割合	16～64歳	63.2%	70%	64.5%	80.1%	57.5%	下降
		65歳以上	56.8%	70%	70.7%	82.8%	60.4%	下降
	自分は健康だと思っている者の割合	16～64歳	81.7%	90%	70.7%	80.9%	68.3%	横ばい
		65歳以上	67.2%	80%	73.4%	81.5%	74.5%	横ばい

問 ふだん、お子さんは夜何時ごろに寝て、朝何時ごろに起きますか。(時間を記入)

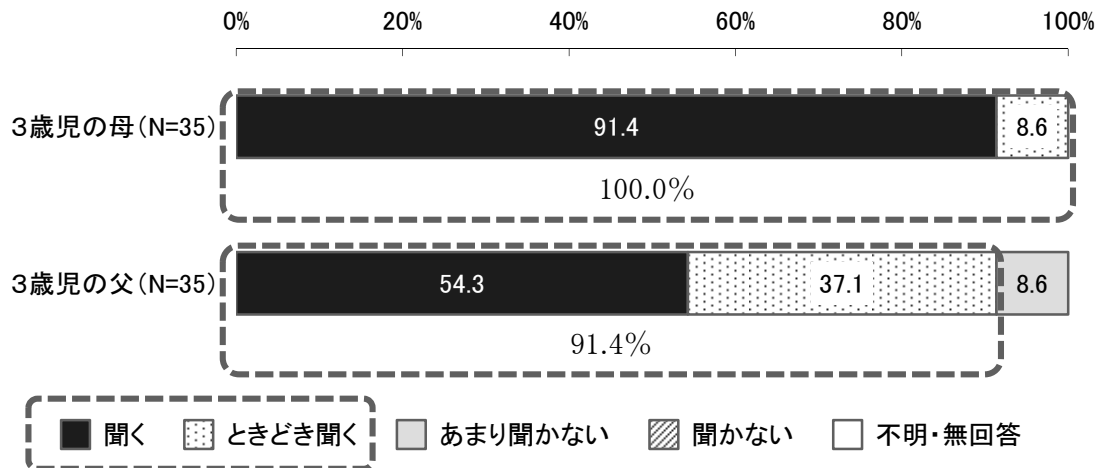
午前7時前に起きる3歳児の割合(「午前5時台」「午前6時台」の合算)は20.0%で、平成24年度と比べほぼ横ばいとなっています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
3歳児 : 19.0%	3歳児 : 😐 横ばい

問 お子さんのお話をよく聞いていますか。(○印は1つ) <母親、父親別>

3歳児の子どもの話をよく聞く親の割合(「聞く」「ときどき聞く」の合算)は母親が100.0%、父親が91.4%となっており、平成24年度と比べ母親は4.8ポイント、父親は4.1ポイントそれぞれ上昇しています。

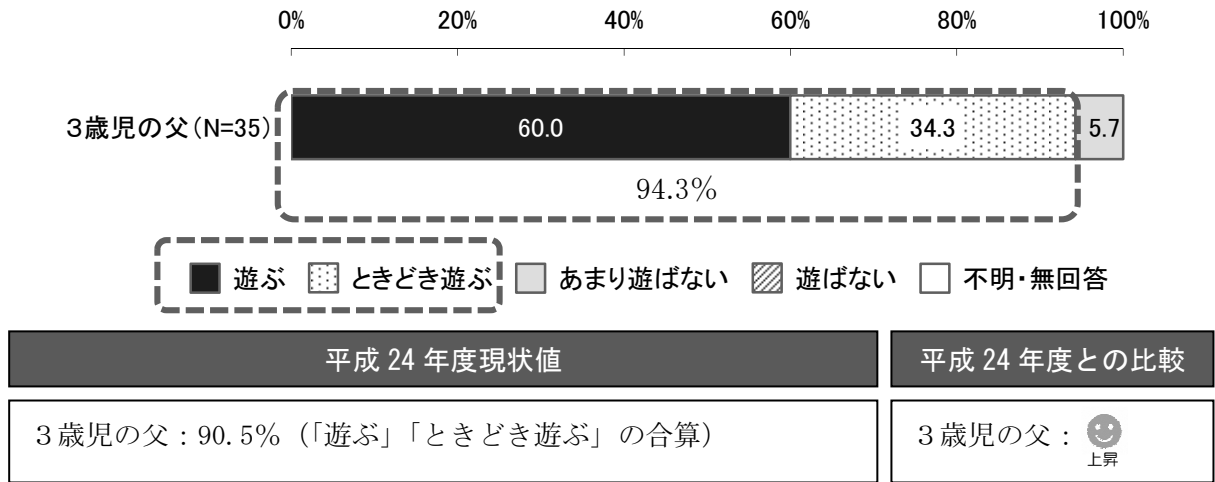


平成24年度現状値	平成24年度との比較
3歳児の母 : 95.2% (「聞く」「ときどき聞く」の合算) 3歳児の父 : 87.3% (「聞く」「ときどき聞く」の合算)	3歳児の母 : 😊 上昇 3歳児の父 : 😊 上昇



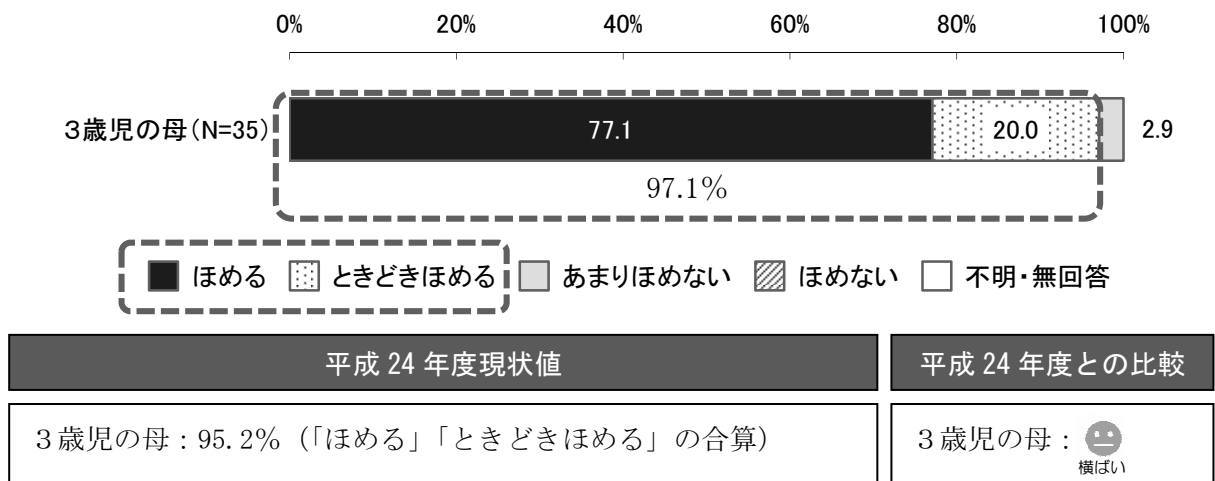
問 お子さんと一緒に遊んでいますか。(〇印は1つ) <父親>

子どもと遊ぶ父親の割合（「遊ぶ」「ときどき遊ぶ」の合算）は94.3%となっており、平成24年度と比べ3.8ポイント上昇しています。



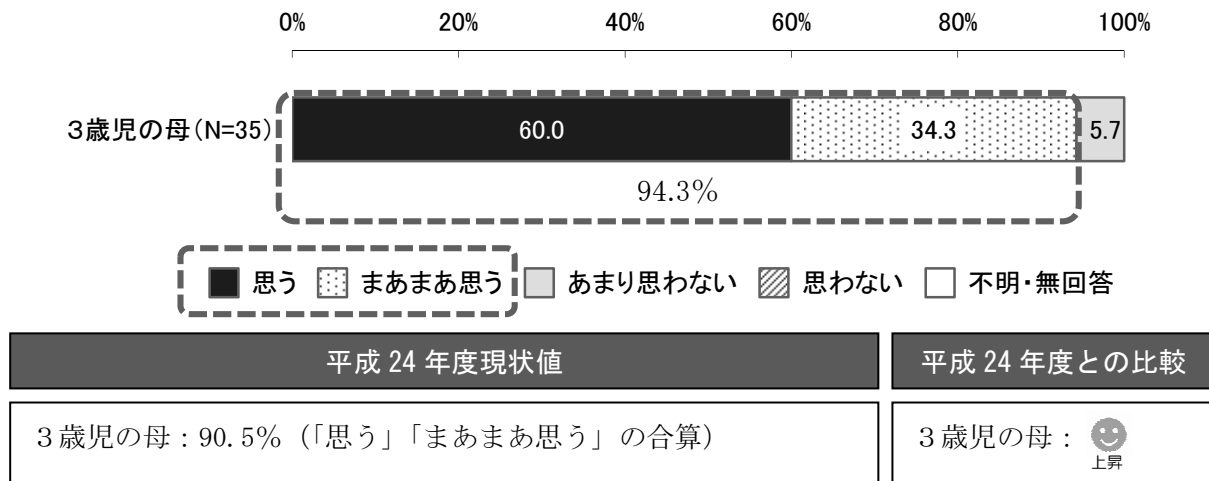
問 日ごろからお子さんをほめていますか。(〇印は1つ) <母親>

子どもをほめる母親の割合（「ほめる」「ときどきほめる」の合算）は97.1%となっており、平成24年度と比べほぼ横ばいとなっています。



問 子育てが楽しいと思いますか。(〇印は1つ) <母親>

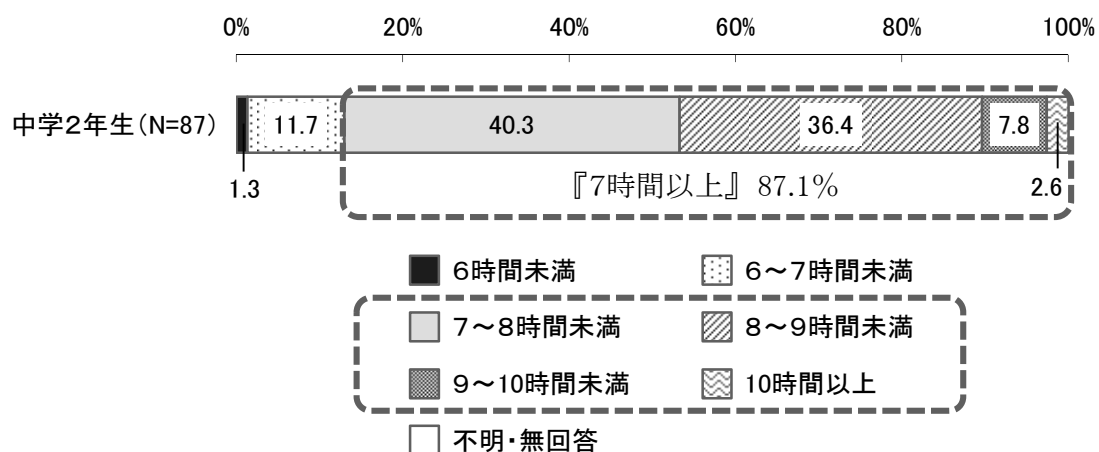
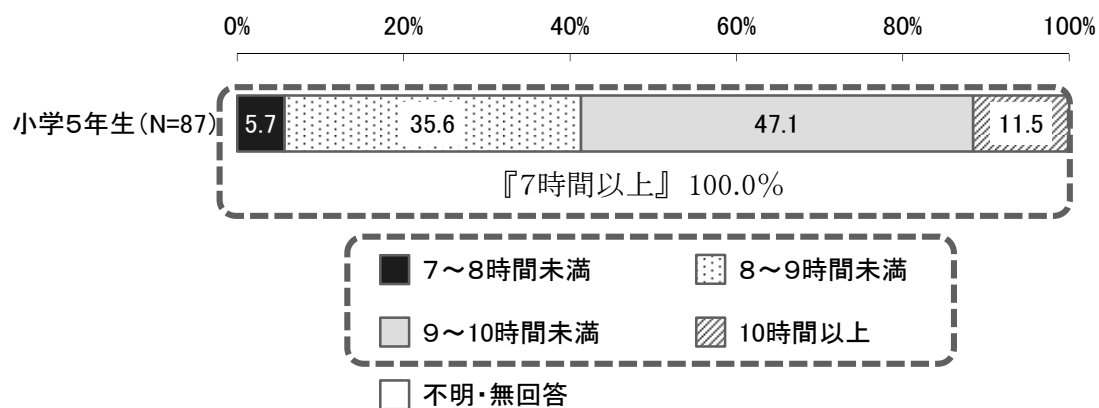
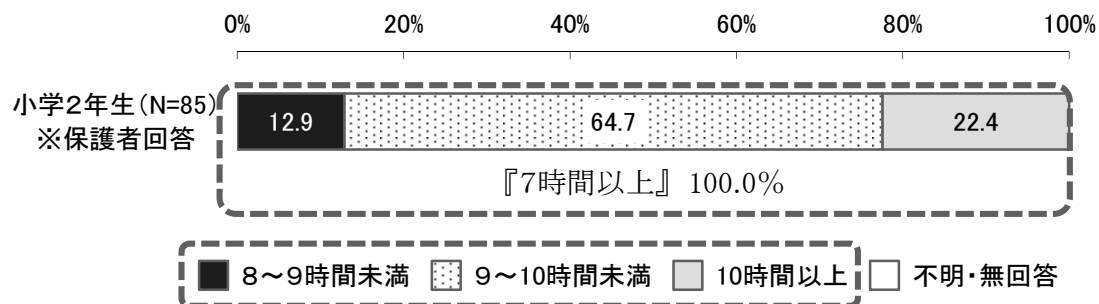
子育てが楽しいと思う母親の割合（「思う」「まあまあ思う」の合算）は94.3%となっており、平成24年度と比べ3.8ポイント上昇しています。



問 お子さんの睡眠時間は何時間ぐらいですか。(時間を記入) <小学2年生の保護者>

問 ねむる時間／睡眠時間は何時間ぐらいですか。(時間を記入)

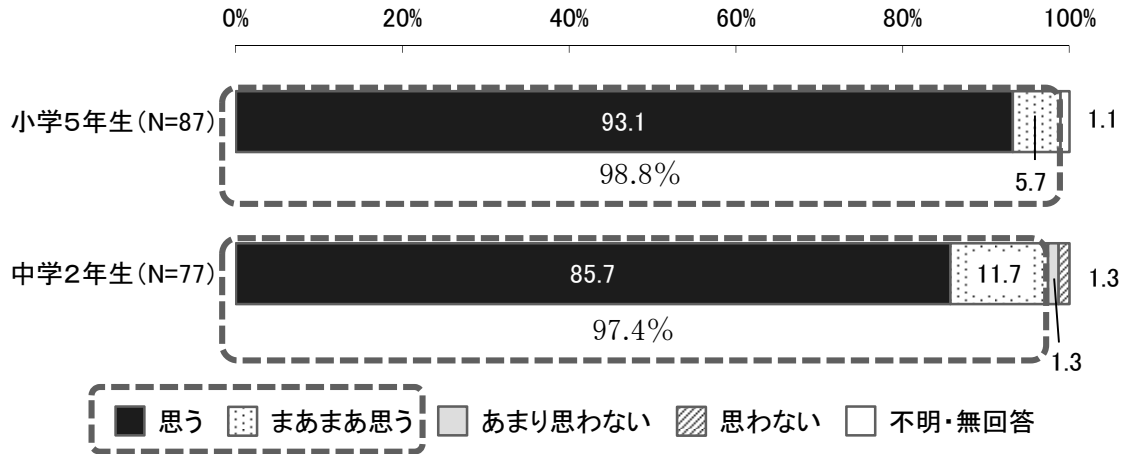
1日7時間以上睡眠をとる者の割合(7時間以上の合算)は小学2年及び5年生でそれぞれ100.0%、中学2年生で87.1%となっており、平成24年度と比べ小学2年及び5年生はほぼ横ばい、中学2年生は10.1ポイント上昇しています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
小学2年生：97.4% (7時間以上の合算)	小学2年生：😊 上昇
小学5年生：98.8% (7時間以上の合算)	小学5年生：😊 上昇
中学2年生：77.0% (7時間以上の合算)	中学2年生：😊 上昇

問 自分の命を大切に思いますか。(○印は1つ)

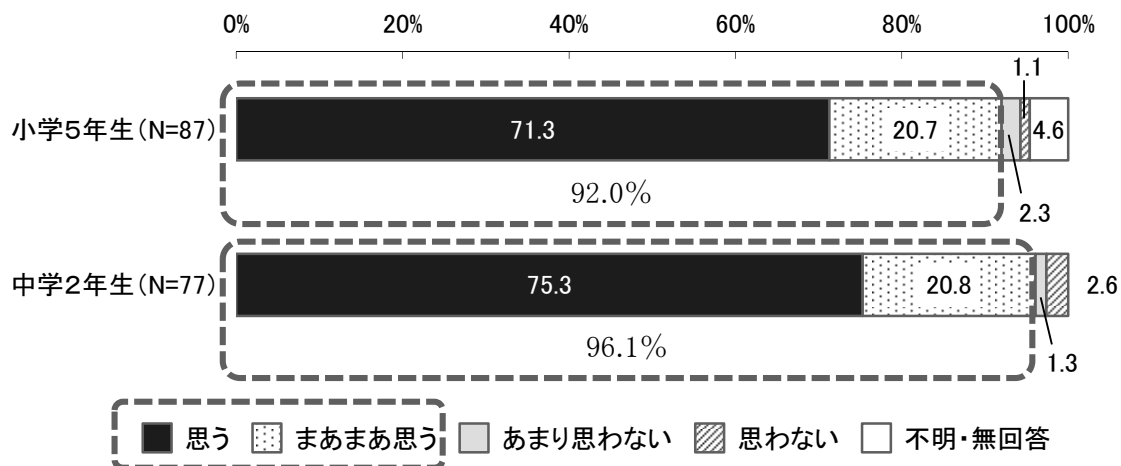
自分の命を大切に思う者の割合(「思う」「まあまあ思う」の合算)は小学5年生で98.8%、  
 中学2年生で97.4%となっており、平成24年度と比べいずれもほぼ横ばいとなっています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
小学5年生 : 96.3% (「思う」「まあまあ思う」の合算) 中学2年生 : 95.1% (「思う」「まあまあ思う」の合算)	小学5年生 :  横ばい 中学2年生 :  横ばい

問 自分のことを家族が大切に思っていると思いますか。(〇印は1つ)

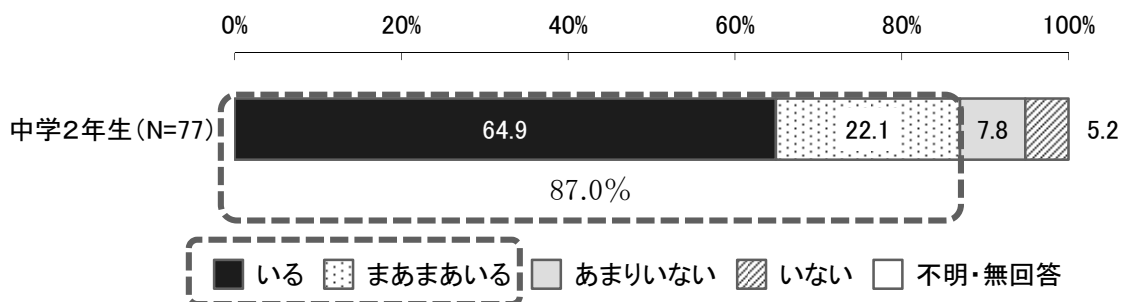
自分のことを家族が大切に思っていると思う者の割合（「思う」「まあまあ思う」の合算）は小学5年生で92.0%、中学2年生で96.1%となっており、平成24年度と比べいずれもほぼ横ばいとなっています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
小学5年生：93.9%（「思う」「まあまあ思う」の合算） 中学2年生：96.7%（「思う」「まあまあ思う」の合算）	小学5年生：横ばい 中学2年生：横ばい

問 悩みを相談できる人はいますか。(〇印は1つ)

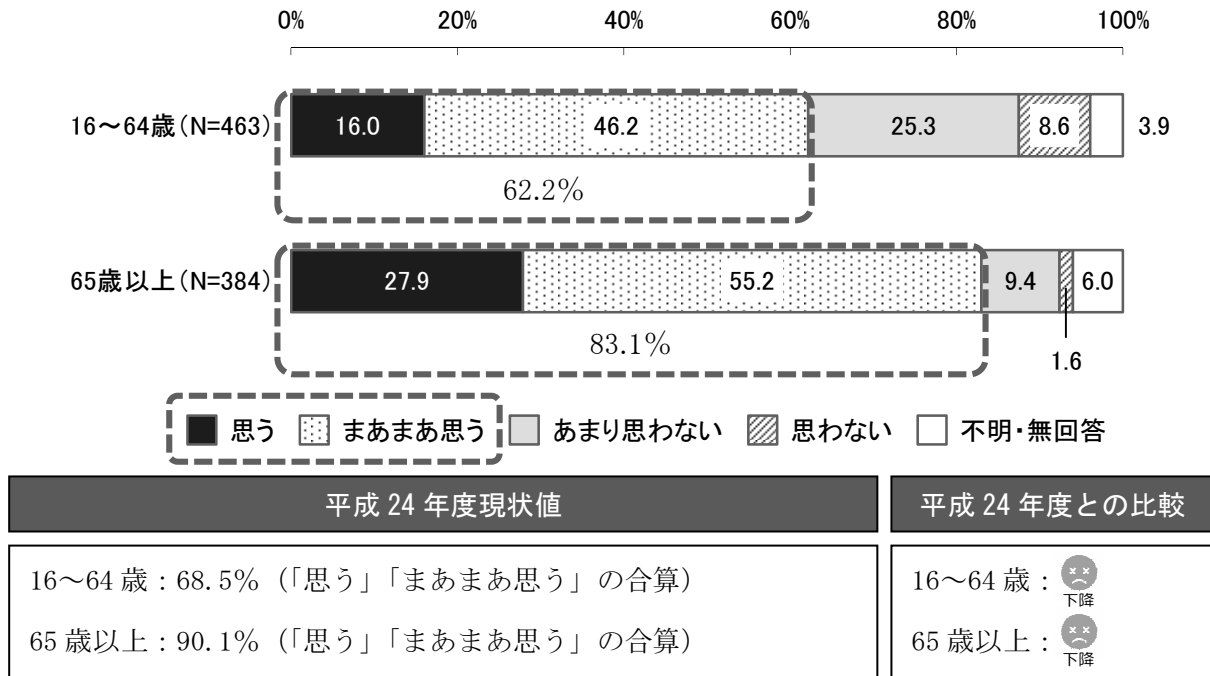
相談相手がいる中学2年生の割合（「いる」「まあまあいる」の合算）は87.0%となっており、平成24年度と比べ8.1ポイント下降しています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
中学2年生：95.1%（「いる」「まあまあいる」の合算）	中学2年生：下降

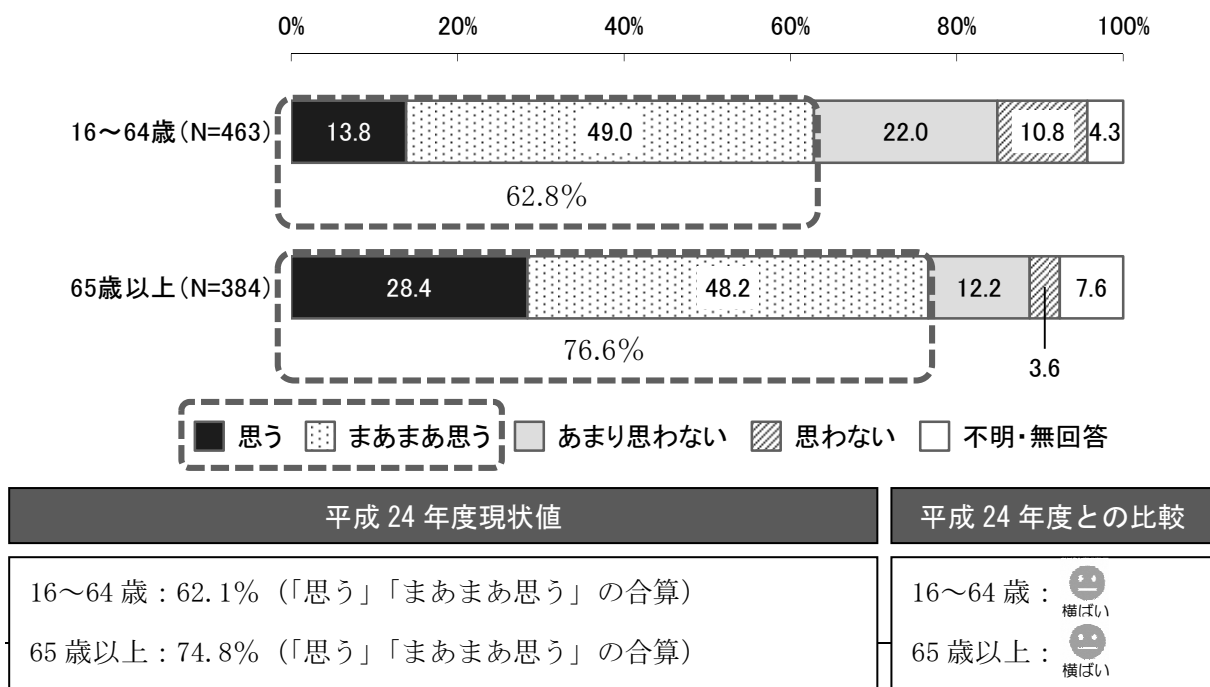
問 日ごろとっている睡眠時間で休養がとれていると思いますか。(〇印は1つ)

日頃とっている睡眠時間で休養がとれている者の割合(「思う」「まあまあ思う」の合算)は16～64歳が62.2%、65歳以上が83.1%となっており、平成24年度と比べ16～64歳が6.3ポイント、65歳以上が7.0ポイント、それぞれ下降しています。



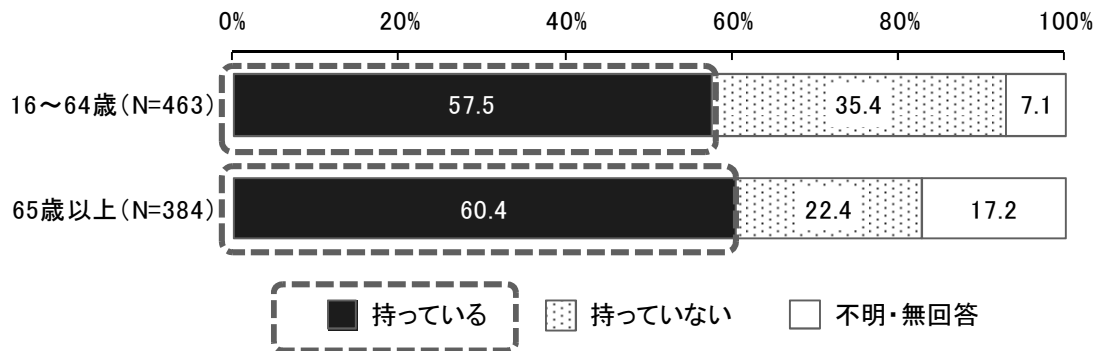
問 この1ヶ月間を振り返り、自身の不満や悩み、ストレスなどが解消できていると思いますか。(〇印は1つ)

ストレスを解消できている者の割合(「思う」「まあまあ思う」の合算)は、16～64歳が62.8%、65歳以上が76.6%となっており、平成24年度と比べいずれもほぼ横ばいとなっています。



問 あなたは趣味をもっていますか。(○印は1つ)

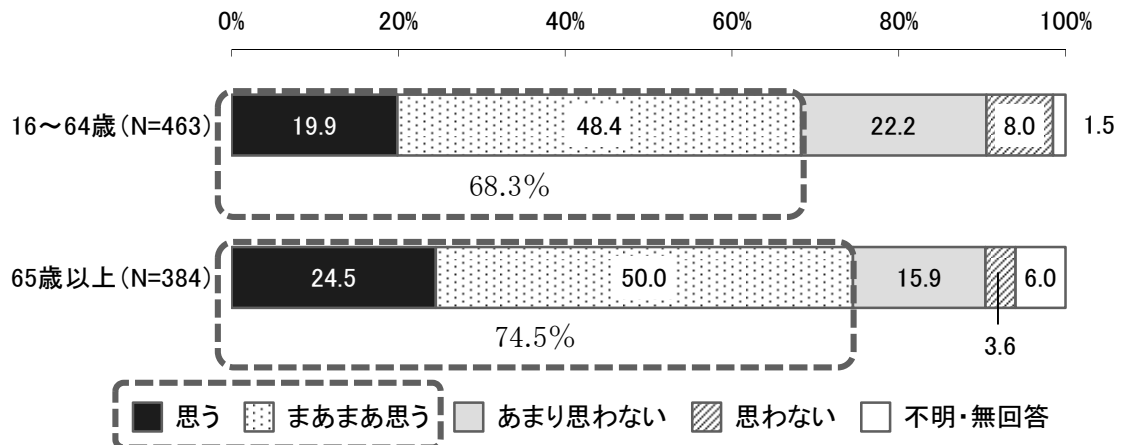
趣味を持っている者の割合は16～64歳が57.5%、65歳以上が60.4%となっており、平成24年度と比べ16～64歳が7.0ポイント、65歳以上が10.3ポイント、それぞれ下降しています。



平成 24 年度現状値	平成 24 年度との比較
16～64 歳 : 64.5%	16～64 歳 : 下降
65 歳以上 : 70.7%	65 歳以上 : 下降

問 自分は健康だと思っていますか。(○印は1つ)

自分は健康だと思っている者の割合(「思う」「まあまあ思う」の合算)は16～64歳が68.3%、65歳以上が74.5%となっており、平成24年度と比べいずれもほぼ横ばいとなっています。



平成 24 年度現状値	平成 24 年度との比較
16～64 歳 : 70.7% (「思う」「まあまあ思う」の合算)	16～64 歳 : 横ばい
65 歳以上 : 73.4% (「思う」「まあまあ思う」の合算)	65 歳以上 : 横ばい

(3) たばこ・アルコール

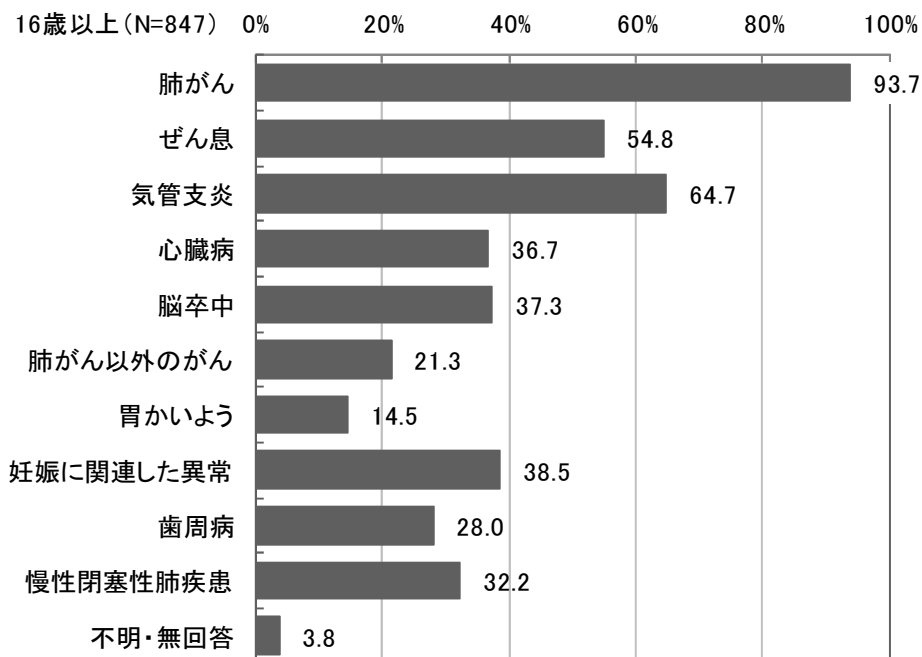
	指標	対象者	第1次計画		第2次計画			推移	
			H13 調査値	H24 目標値	H24 現状値	H34 目標値	H29 現状値		
飲酒・喫煙の経験	★妊娠中に喫煙していた者の割合	妊婦	3.8%	0%	2.5%	0%	3.6%	上昇 (悪い傾向)	
たばこの影響の認知度	たばこが体に及ぼす影響を知る者の割合	16歳以上	肺がん	94.3%	100%	90.6%	100%	93.7%	上昇
			ぜん息	56.4%		46.9%	73.5%	54.8%	上昇
			気管支炎	58.9%		56.7%	78.4%	64.7%	上昇
			心臓病	42.0%		33.8%	66.9%	36.7%	横ばい
			脳卒中	29.4%		35.9%	68.0%	37.3%	横ばい
			肺がん以外のがん	21.7%		18.5%	59.3%	21.3%	横ばい
			胃かいよう	20.9%		16.0%	58.0%	14.5%	横ばい
			妊娠に関連した異常	59.9%		38.5%	69.3%	38.5%	横ばい
			歯周病	18.2%		22.8%	61.4%	28.0%	上昇
			COPD(慢性閉塞性肺疾患)	—		28.5%	64.3%	32.2%	上昇
飲酒・喫煙の経験	★妊娠中に飲酒していた者の割合	妊婦	1.9%	0%	4.1%	0%	0.3%	下降 (よい傾向)	
適正飲酒の知識	節度ある1日の飲酒の量を知っている者の割合	16～64歳男性	48.6%	100%	56.6%	63.0%	59.2%	横ばい	
		16～64歳女性	49.3%	100%	46.8%	55.9%	50.5%	上昇	



問 次の病気のうち、「たばこが影響する」と思うものはどれですか。(○印はいくつでも)

たばこが体に及ぼす影響を知る者の割合は「肺がん」が93.7%と最も高く、次いで「気管支炎」が64.7%、「ぜん息」が54.8%となっています。

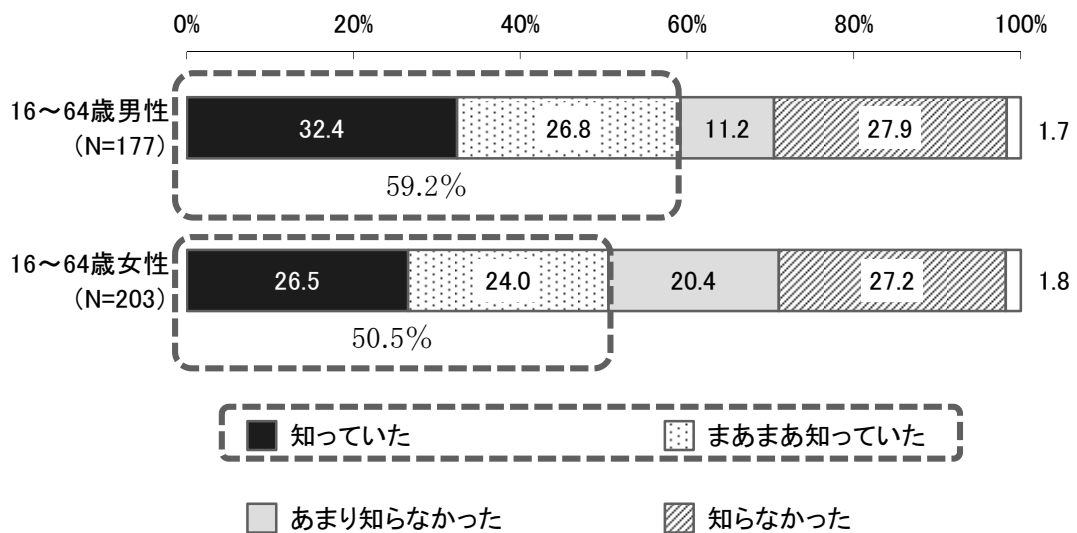
平成24年度と比べて「肺がん」が3.1ポイント、「ぜん息」が7.9ポイント、「気管支炎」が8.0ポイント、「歯周病」が5.2ポイント、「慢性閉塞性肺疾患」が3.7ポイント、それぞれ上昇しています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
肺がん：90.6%	肺がん：😊 ↑昇
ぜん息：46.9%	ぜん息：😊 ↑昇
気管支炎：56.7%	気管支炎：😊 ↑昇
心臓病：33.8%	心臓病：😞 横ばい
脳卒中：35.9%	脳卒中：😞 横ばい
肺がん以外のがん：18.5%	肺がん以外のがん：😞 横ばい
胃かいよう：16.1%	胃かいよう：😞 横ばい
妊娠に関連した異常：38.5%	妊娠に関連した異常：😞 横ばい
歯周病：22.8%	歯周病：😊 ↑昇
COPD（慢性閉塞性肺疾患）：28.5%	COPD（慢性閉塞性肺疾患）：😊 ↑昇

問 「節度ある適度な飲酒」として、1日平均アルコールで約20g(ビールの中瓶1本程度)とされていますが、あなたはこのことを知っていましたか。(○印は1つ)

節度ある1日の飲酒の量を知っている者の割合(「知っていた」「まあまあ知っていた」の合算)は16～64歳男性が59.2%、16～64歳女性が50.5%となっており、平成24年度と比べ16～64歳男性はほぼ横ばい、16～64歳女性は3.7ポイント上昇しています。



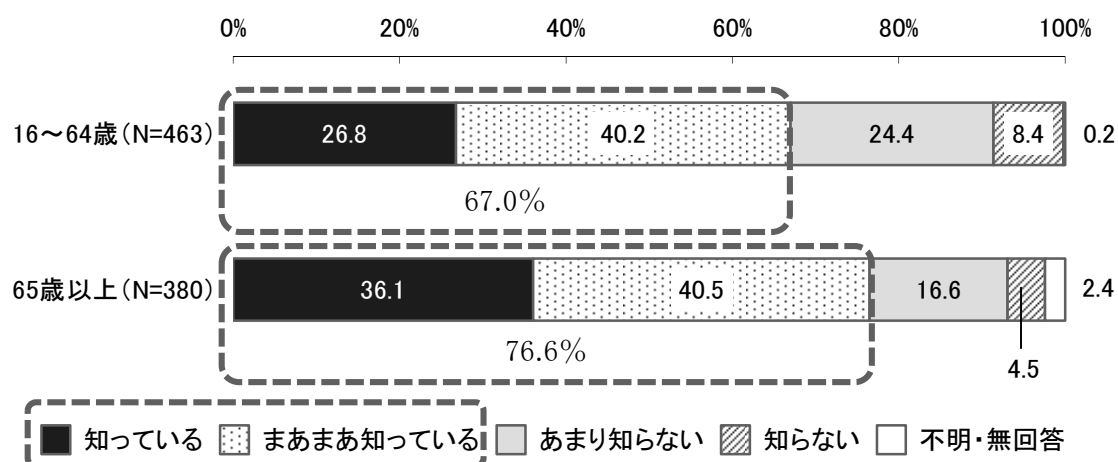
平成24年度現状値	平成24年度との比較
16～64歳男性：56.6% (「知っていた」「まあまあ知っていた」の合算)	16～64歳男性：☹️ 横ばい
16～64歳女性：46.8% (「知っていた」「まあまあ知っていた」の合算)	16～64歳女性：😊 上昇

#### (4) 歯・口腔の健康

	指標	対象者	第1次計画		第2次計画			推移
			H13 調査値	H24 目標値	H24 現状値	H34 目標値	H29 現状値	
予歯 防周 病の 方法 の 割合	歯周病の予防方法を知っている者の割合	16～64歳	49.9%	60%	56.6%	70.1%	67.0%	上昇
		65歳以上	57.1%	70%	73.8%	81.8%	76.6%	横ばい
歯科 定期 健診 の 割合	かかりつけの歯科医がいる者の割合	16～64歳	44.2%	88%	67.9%	82.1%	72.6%	上昇
		65歳以上	53.3%	100%	84.5%	100%	83.9%	横ばい
歯 や 口 腔 の 状 態	8020運動を知る者の割合	16～64歳	62.0%	100%	65.3%	71.2%	66.8%	横ばい
		65歳以上	53.7%	100%	73.6%	100%	70.5%	下降
歯科 定期 健診 の 割合	歯の健康管理のために定期的に歯科の健康診査を受ける者の割合	16～64歳	20.9%	40%	37.8%	47.8%	52.7%	上昇
		65歳以上	25.1%	50%	58.1%	75.1%	58.3%	横ばい
歯 や 口 腔 の 状 態	★う蝕罹患率	3歳児	19.0%	10.5%	8.6%	減少へ	10.4%	上昇
		小学5年生	62.9%	減少へ	54.8%	減少へ	42.9%	下降
	★DMF指数 p45参照	中学2年生	2.17本	1.0本	1.25本	1.0本	0.61本	減少

問 歯周病の予防方法を知っていますか。(○印は1つ)

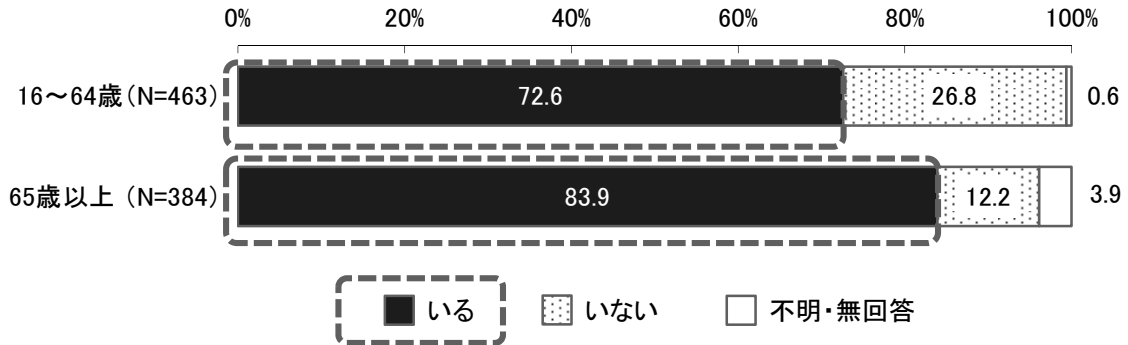
歯周病の予防知識を知っている者の割合（「知っている」「まあまあ知っている」の合算）は16～64歳が67.0%、65歳以上が76.6%となっており、平成24年度と比べ16～64歳は10.4ポイント上昇、65歳以上はほぼ横ばいとなっています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
16～64歳：56.6%（「知っている」「まあまあ知っている」の合算）	16～64歳：😊 上昇
65歳以上：73.8%（「知っている」「まあまあ知っている」の合算）	65歳以上：😐 横ばい

問 かかりつけの歯科医はいますか。(○印は1つ)

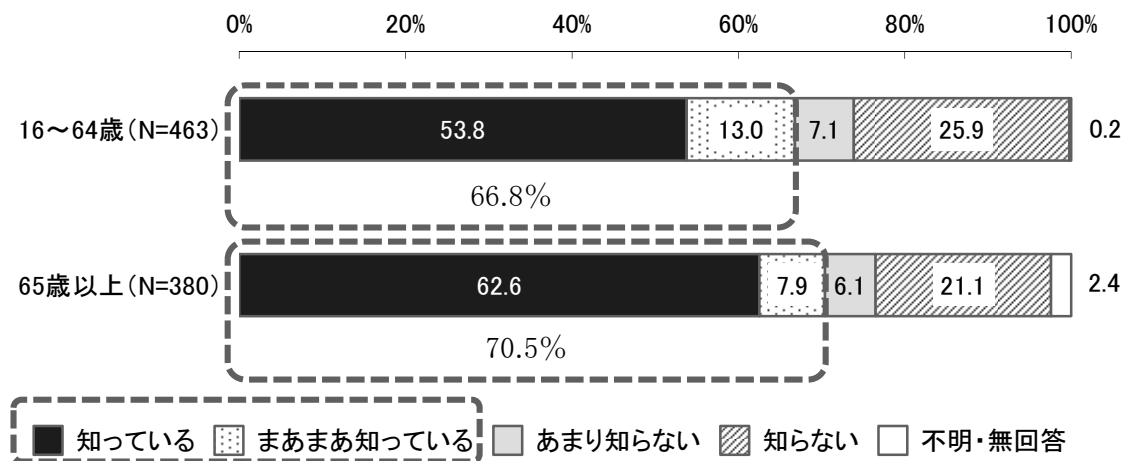
かかりつけ歯科医がいる者の割合は16～64歳が72.6%、65歳以上が83.9%となっており、平成24年度と比べ16～64歳は4.7ポイント上昇、65歳以上はほぼ横ばいとなっています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
16～64歳 : 67.9% 65歳以上 : 84.5%	16～64歳 : 上昇 65歳以上 : 横ばい

問 8020運動を知っていますか。(○印は1つ)

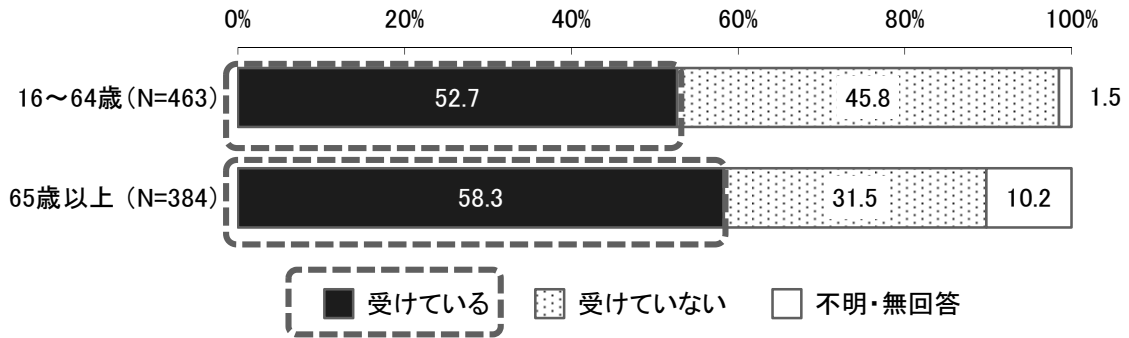
8020運動を知る者の割合(「知っている」「まあまあ知っている」の合算)は16～64歳が66.8%、65歳以上が70.5%となっており、平成24年度と比べ16～64歳はほぼ横ばい、65歳以上は3.1ポイント下降となっています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
16～64歳 : 65.3% (「知っている」「まあまあ知っている」の合算) 65歳以上 : 73.6% (「知っている」「まあまあ知っている」の合算)	16～64歳 : 横ばい 65歳以上 : 下降

問 歯の健康管理のために定期的に歯科の健康診査を受けていますか。(○印は1つ)

歯の健康管理のために定期的に歯科の健康診査を受ける者の割合は 16～64 歳が 52.7%、65 歳以上が 58.3%となっており、平成 24 年度と比べ 16～64 歳は 14.9 ポイント上昇、65 歳以上はほぼ横ばいとなっています。



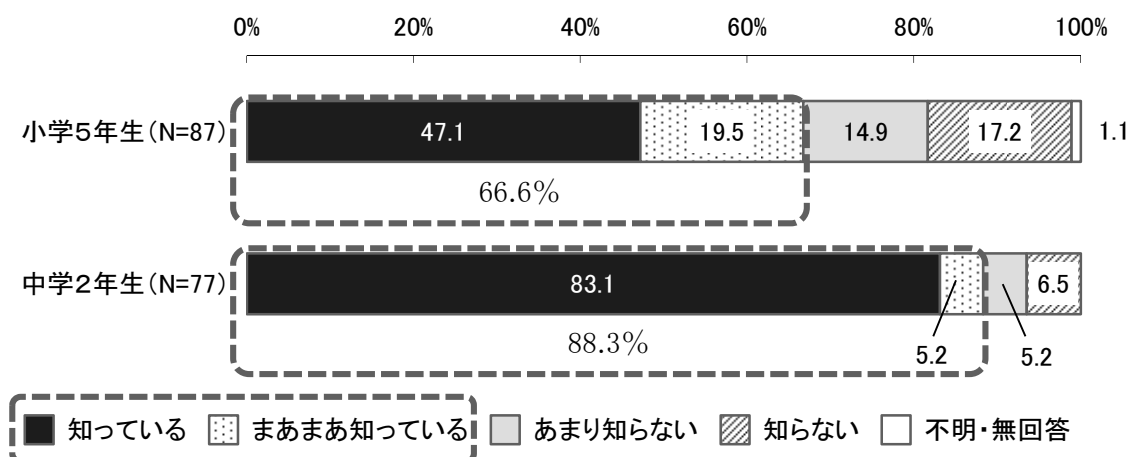
平成 24 年度現状値	平成 24 年度との比較
16～64 歳 : 37.8% 65 歳以上 : 58.1%	16～64 歳 : 😊 ↑ 14.9 65 歳以上 : 😐 横ばい

### (5) 健康管理

	指標	対象者	第1次計画		第2次計画			推移	
			H13 調査値	H24 目標値	H24 現状値	H34 目標値	H29 現状値		
健 特 診 定	★特定健康診査 受診率	40歳以上	—	—	42.9%	特定健診 実施計画 に準ずる	48.6%	上昇	
がん 検 診	★がん 検診 受診率	胃がん	40歳以上	12.5%	19%	12.1%	50.0%	14.1%	上昇
		子宮頸がん	20歳以上	11.9%	18%	32.6%	50.0%	34.0%	上昇
		肺がん	40歳以上	22.2%	33%	11.7%	50.0%	14.1%	上昇
		乳がん		13.4%	20%	29.2%	50.0%	26.3%	下降
		大腸がん		13.6%	20%	16.9%	50.0%	23.9%	上昇
危 薬 険 物 性 の	薬物の危険性を 知っている者の割合	小学5年生	70.3%	100%	69.5%	100%	66.6%	横ばい	
		中学2年生	96.9%	100%	91.8%	100%	88.3%	下降	
子 ど も の 安 全	休日・夜間の小児 救急医療を知って いる者の割合	6ヶ月未満児 の母	78.8%	100%	66.7%	100%	61.5%	下降	
	事故防止のために 家の中を工夫して いる親の割合	1歳6か月児 の母	80.0%	100%	93.2%	100%	83.7%	下降	
	子どもを安心して 遊ばせるための施 設、遊び場があると 思う親の割合	3歳児の母	65.7%	増加へ	77.8%	87.3%	80.0%	横ばい	

#### 問 薬物(シンナー等)の危険性を知っていますか。(○印は1つ)

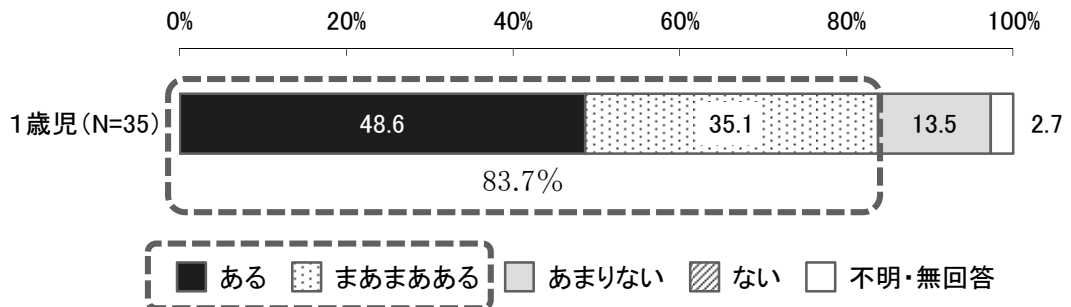
薬物の危険性を知っている者の割合(「知っている」「まあまあ知っている」の合算)は小学5年生が66.6%、中学2年生が88.3%となっており、平成24年度と比べ小学5年生はほぼ横ばい、中学2年生は3.5ポイント下降しています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
小学5年生: 69.5% (「知っている」「まあまあ知っている」の合算)	小学5年生: 横ばい
中学2年生: 91.8% (「知っている」「まあまあ知っている」の合算)	中学2年生: 下降

問 お子さんの事故防止のために家の中で工夫していることはありますか。(〇印は1つ) <母親>

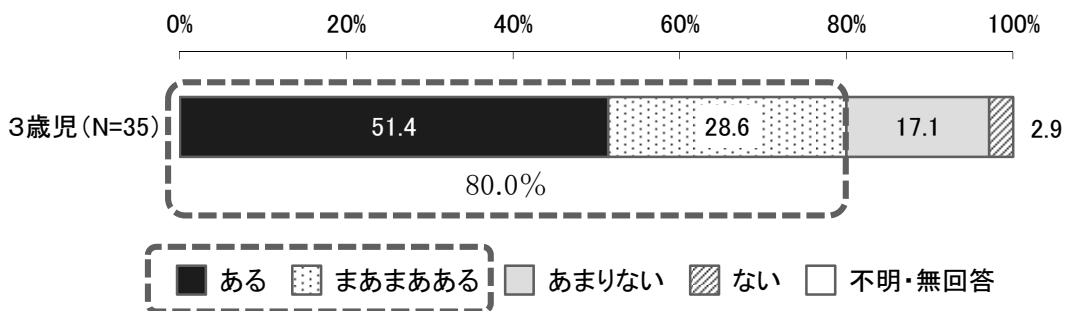
事故防止のために家の中を工夫している1歳児の親の割合(「ある」「まあまあある」の合算)は83.7%で、平成24年度と比べ9.5ポイント下降しています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
1歳6か月児の母：93.2% (「ある」「まあまあある」の合算)	1歳6か月児の母： 下降 ※H29は1歳児の母

問 お子さんを安心して遊ばせる施設・遊び場があると思いますか。(〇印は1つ)

子どもを安心して遊ばせるための施設、遊び場があると思う3歳児の親の割合(「ある」「まあまあある」の合算)は80.0%で、平成24年度と比べほぼ横ばいとなっています。



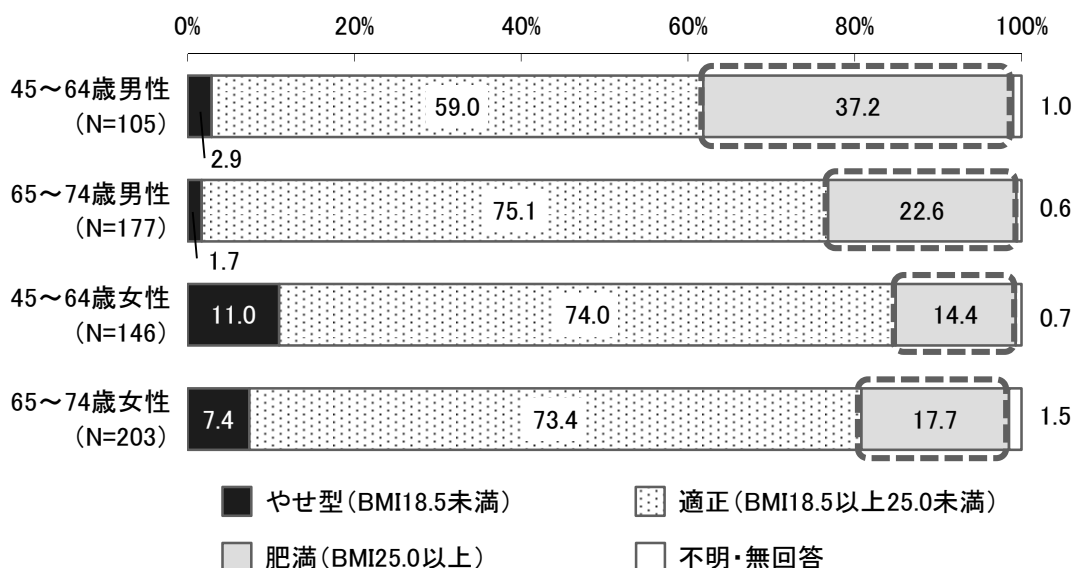
平成24年度現状値	平成24年度との比較
3歳児の母：77.8% (「ある」「まあまあある」の合算)	3歳児の母： 横ばい

## (6) 栄養・食生活

	指標	対象者	第1次計画		第2次計画			推移
			H13 調査値	H24 目標値	H24 現状値	H34 目標値	H29 現状値	
子どもの栄養状態	★小学5年生の肥満の割合(ロ-レル指数 145 以上)	小学5年生男	16.2%	減少へ	7.5%	減少へ	7.4%	下降
		小学5年生女	15.1%	減少へ	7.3%	減少へ	4.1%	下降
大人の栄養状態	BMI25 以上の者の割合	45～64 歳男性	18.4%	15%	28.4%	18.4%	37.2%	上昇
		65～74 歳男性	17.2%	15%	22.6%	17.2%	22.6%	横ばい
		45～64 歳女性	13.9%	12%	13.8%	11.8%	14.4%	横ばい
		65～74 歳女性	20.8%	18%	15.6%	13.6%	17.7%	横ばい
	自分に適切な食事の量や内容を知っている者の割合	65 歳以上	60.2%	70%	84.7%	94.7%	86.2%	横ばい

### 問 身長・体重(数値を記入)／BMI25 以上の者の割合

BMI 25 以上の者の割合は 45～64 歳男性が 37.2%、65～74 歳男性が 22.6%、45～64 歳女性が 14.4%、65～74 歳女性が 17.7%となっています。平成 24 年度と比べ 45～64 歳男性で 8.8 ポイント上昇、他はほぼ横ばいとなっています。

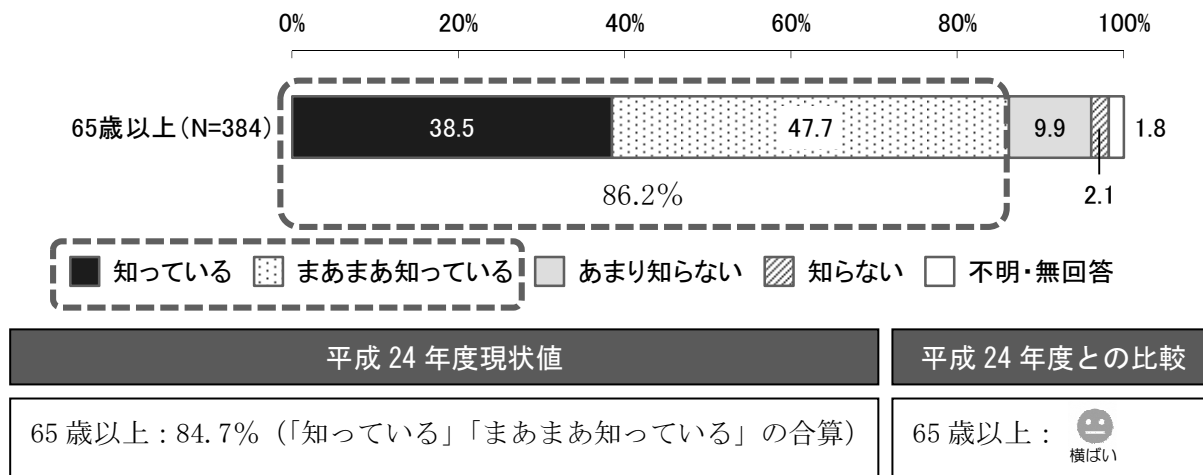


平成 24 年度現状値	平成 24 年度との比較
45～64 歳男性 : 28.4%    45～64 歳女性 : 13.8%	45～64 歳男性 :  上昇    45～64 歳女性 :  横ばい
65～74 歳男性 : 22.6%    65～74 歳女性 : 15.6%	65～74 歳男性 :  横ばい    65～74 歳女性 :  横ばい



問 自分にとって適切な食事の内容・量を知っていますか。(〇印は1つ)

自分に適切な食事の量や内容を知っている 65 歳以上の割合（「知っている」「まあまあ知っている」の合算）は 86.2% となっており、平成 24 年度と比べほぼ横ばいとなっています。



## 2. 食育分野の指標

### (1) 食を通じた健康づくり

	指標	対象者	第1次計画		第2次計画			推移
			H13 調査値	H24 目標値	H24 現状値	H34 目標値	H29 現状値	
朝食	朝食をとる者の割合	3歳児	91.8%	100%	93.7%	100%	100%	上昇
		小学2年生	91.7%	100%	98.8%	100%	100%	上昇
		小学5年生	91.0%	100%	97.5%	100%	98.8%	横ばい
		中学2年生	85.6%	100%	100.0%	100%	97.4%	横ばい
		16～44歳 男性	64.1%	80%	85.5%	94.7%	84.7%	横ばい
食育の認知度	「食育」という言葉を知っている者の割合	就学前児童の保護者	/		90.2%	100%	95.0%	上昇
		少年期			68.5%	75.2%	67.1%	横ばい
		青壮中年期			73.9%	81.0%	81.0%	上昇
		高年期			63.7%	72.2%	68.8%	上昇
食事の食べ方	よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心がある者の割合	就学前児童の保護者	/		90.2%	96.1%	91.0%	横ばい
		少年期			71.5%	81.5%	72.6%	横ばい
		青壮中年期			72.4%	82.0%	75.6%	上昇
		高年期			80.6%	86.8%	76.0%	下降

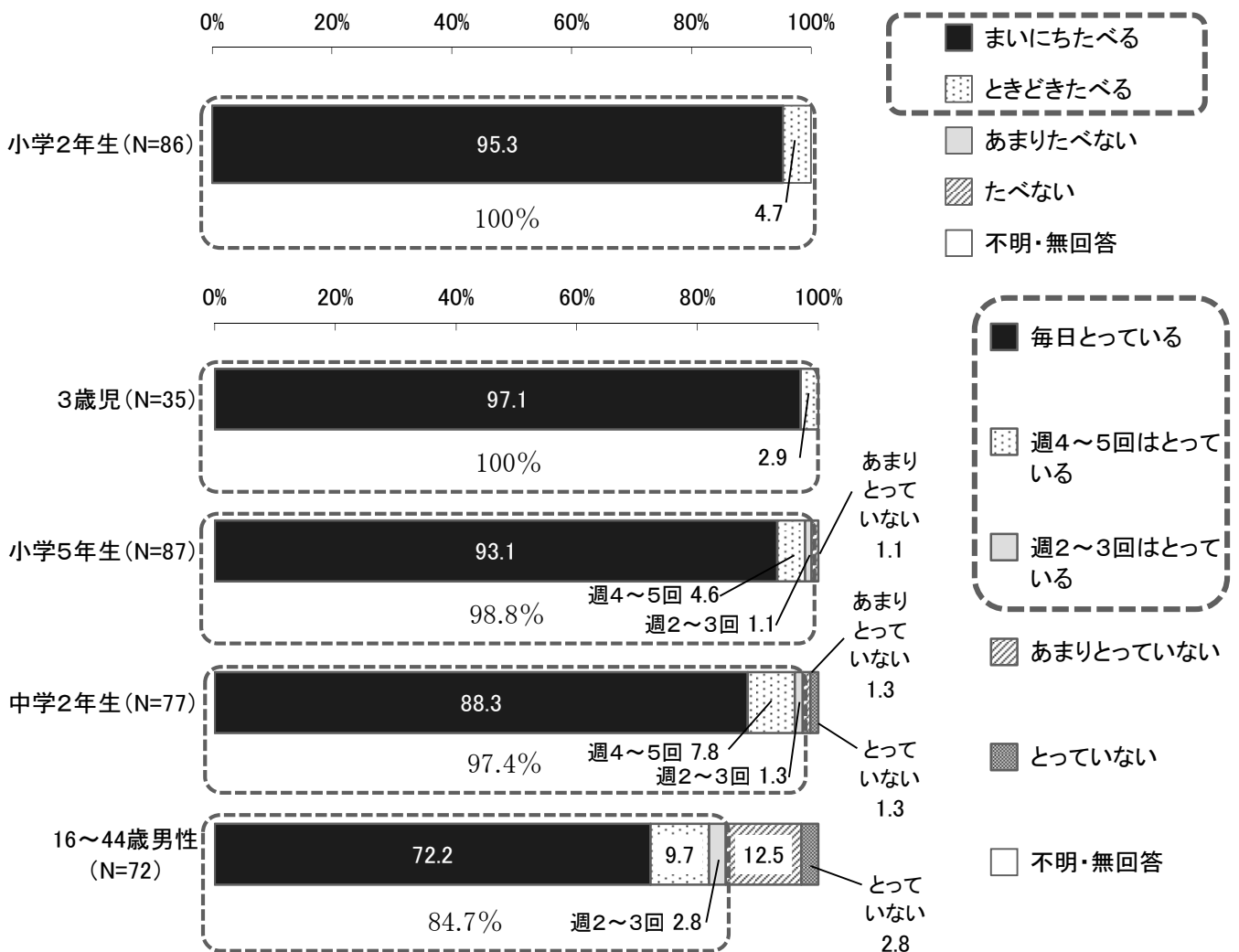
問 朝ごはんをたべていますか？ <小学2年生>

問 お子さんは朝食をとっていますか。(〇印は1つ) <就学前児童保護者>

問 朝食をとっていますか。(〇印は1つ)

朝食をとる者の割合については、以下のようになっています。

小学2年生では、朝食をとっている(「まいにちたべる」「ときどきたべる」の合算)割合が100%となっています。また、3歳児、小学5年生、中学2年生、16~44歳男性では、朝食をとっている(「毎日とっている」「週4~5回はとっている」「週2~3回はとっている」の合算)割合は3歳児が100.0%、小学5年生が98.8%、中学2年生が97.4%、16~44歳男性が84.7%となっています。



平成 24 年度現状値	平成 24 年度との比較
3歳児 : 93.7%    小学2年生 : 98.8%    小学5年生 : 97.5% 中学2年生 : 100%    16~44歳男性 : 85.5% (小学2年生は「まいにちたべる」「ときどきたべる」の合算、それ以外は「毎日とっている」~「週2~3回はとっている」の合算)	3歳児 : 😊 上昇    小学2年生 : 😊 上昇 小学5年生 : 😐 横ばい 中学2年生 : 😐 横ばい 16~44歳男性 : 😐 横ばい

(2) 食で育む豊かなこころづくり

	指標	対象者	第1次計画		第2次計画			推移
			H13 調査値	H24 目標値	H24 現状値	H34 目標値	H29 現状値	
食事の楽しみ	家族と一緒に食事 をとる者の割合	3歳児	89.6%	100%	100.0%	100%	97.2%	横ばい
		小学5年生	85.8%	100%	98.8%	100%	100%	上昇
		中学2年生	78.6%	100%	98.4%	100%	90.9%	下降
	食事の時間が楽し いと思う者の割合	就学前児童 の保護者			88.2%	100%	89.9%	横ばい
		少年期			91.0%	100%	92.0%	横ばい
		青壮中年期			87.8%	100%	86.2%	横ばい
		高年期			85.7%	100%	88.5%	横ばい
月1回以上食事づ くり(手伝いを含む) をする者の割合	少年期			68.3%	82.1%	68.8%	横ばい	
食文化の継承	季節の行事食を作 ったことがある者の 割合	就学前児童 の保護者			66.7%	80.5%	53.5%	下降
		青壮中年期			48.3%	72.0%	38.4%	下降
		高年期			43.3%	67.4%	32.6%	下降
食の体験	農林漁業に親しん だり、農林水産体 験をしたことがある 者の割合	就学前児童 の保護者			19.6%	57.9%	18.2%	横ばい
		少年期			32.9%	66.5%	29.3%	下降
		青壮中年期			21.7%	59.0%	22.5%	横ばい
		高年期			21.5%	58.0%	22.4%	横ばい

指標以外に、今後の健康づくりや食育の推進を図る上での参考になるアンケート結果を以下に掲載します。

●夜ごはんを一人で食べる者がいる者の割合

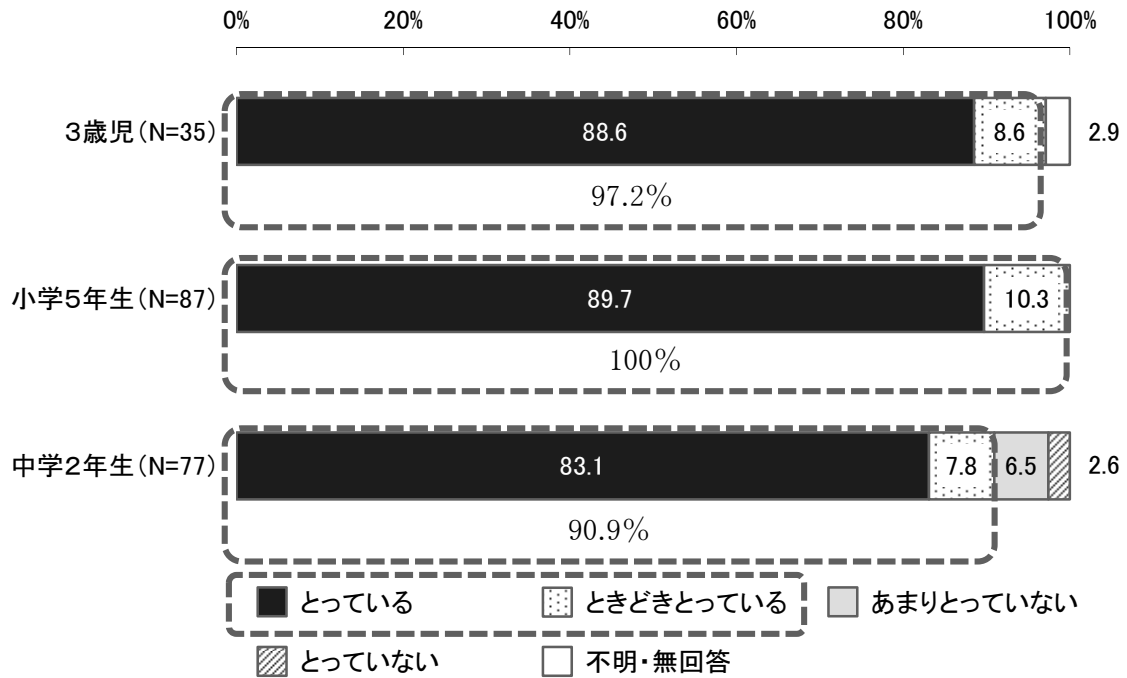
対象者	東郷町		愛知県	
	評価方法	H29	評価方法	H28
小学2年生	夕食を一人で食べるこ とが「週に2～3日ある」「週 に4～5日ある」「ほとんど 毎日」の割合の合計	0.0%	学校のある日、もしくはな い日の夕ごはんを「一人で 食べる」の割合	
小学5年生		3.4%		ある日:2.4% ない日:0.7%
中学2年生		22.1%		ある日:6.1% ない日:2.4%

●1日のすべての食事を一人で食べる者がいる者の割合

対象者	評価方法	H28
青壮中年期	1日のすべての食事を一人で食べるこ とが「週に2～3日ある」「週 に4～5日ある」「ほとんど毎日」の割合の合計	22.0%
高年期		21.8%

問 家族と一緒に食事をとっていますか(○印は1つ)

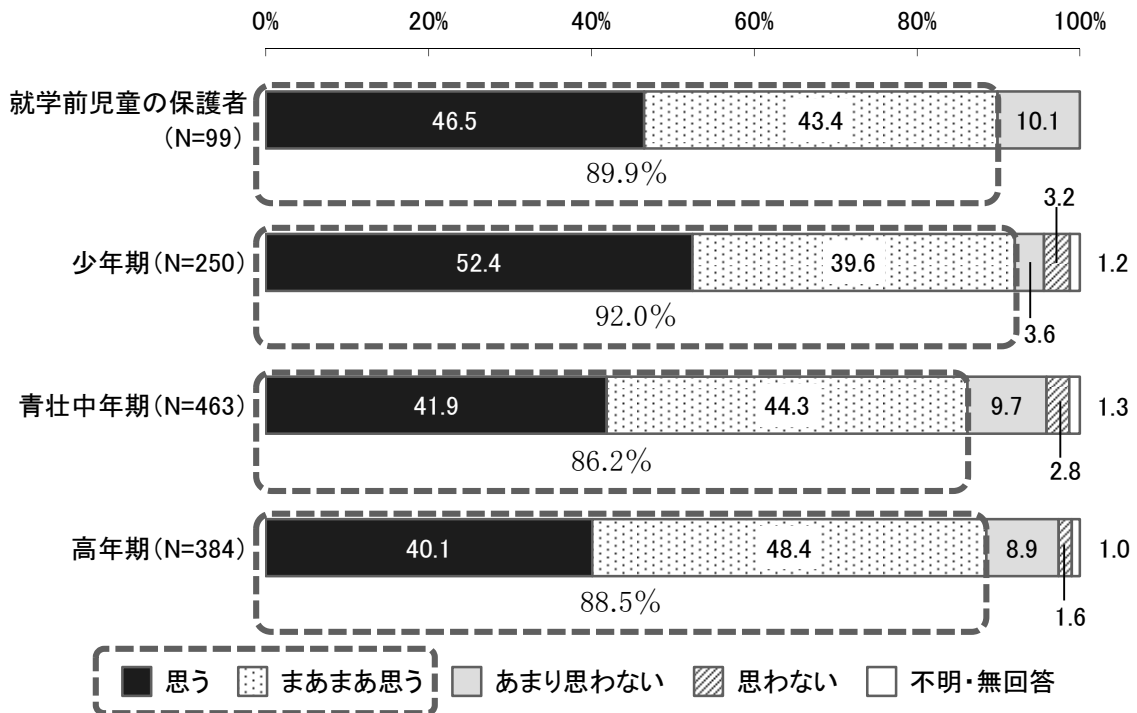
家族と一緒に食事をとる者の割合(「とっている」「ときどきとっている」の合算)は3歳児が97.2%、小学5年生が100.0%、中学2年生が90.9%となっており、平成24年度と比べ3歳児及び小学5年生はそれぞれほぼ横ばい、中学2年生は7.5ポイント下降しています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
3歳児：100% (「とっている」「ときどきとっている」の合算)	3歳児： 😐 横ばい
小学5年生：98.8% (「とっている」「ときどきとっている」の合算)	小学5年生： 😊 上昇
中学2年生：98.4% (「とっている」「ときどきとっている」の合算)	中学2年生： 😞 下降

問 食事の時間が楽しいと思いますか。(○印は1つ)

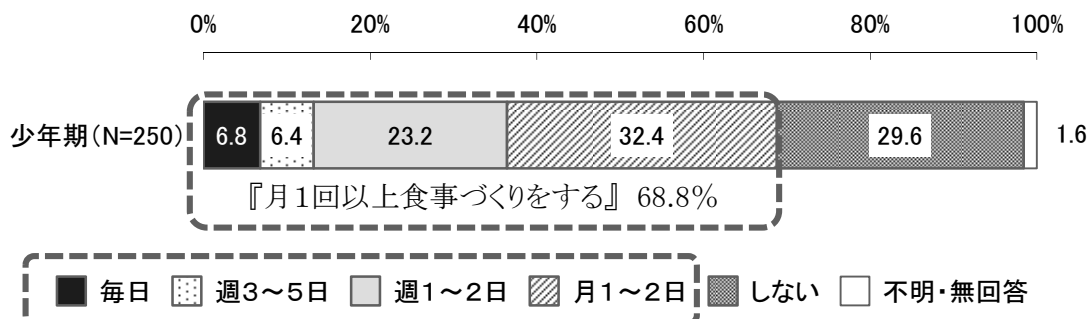
食事の時間が楽しいと思う者の割合（「思う」「まあまあ思う」の合算）は就学前児童の保護者が 89.9%、少年期が 92.0%、青壮中年期が 86.2%、高年期が 88.5%となっています。平成 24 年度と比べ、いずれもほぼ横ばいとなっています。



平成 24 年度現状値	平成 24 年度との比較
就学前児童の保護者：88.2%（「思う」「まあまあ思う」の合算） 少年期：91.0%（「思う」「まあまあ思う」の合算） 青壮中年期：87.8%（「思う」「まあまあ思う」の合算） 高年期：85.7%（「思う」「まあまあ思う」の合算）	就学前児童の保護者： 横ばい 少年期： 横ばい 青壮中年期： 横ばい 高年期： 横ばい

問 どのくらいの頻度で食事づくり(手伝いを含む)をしますか。(〇印は1つ)

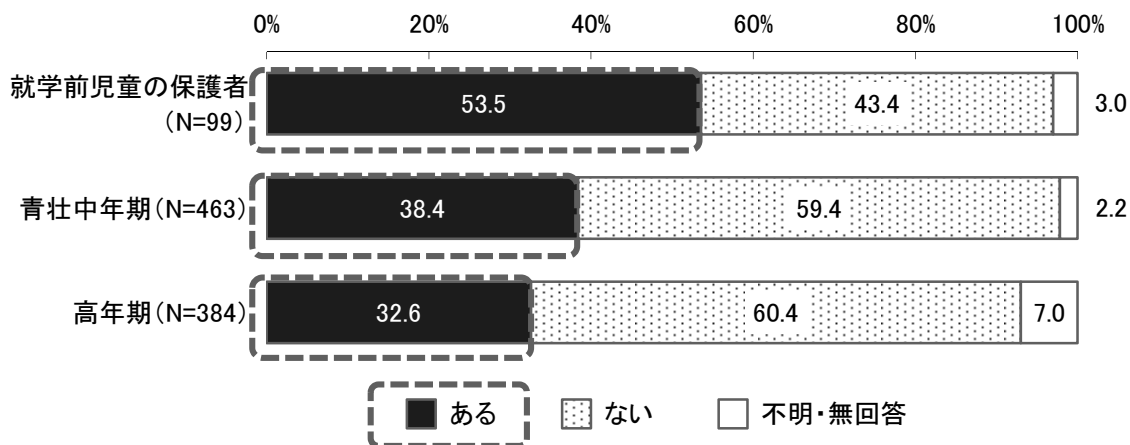
月1回以上食事づくりをする少年期の割合(「毎日」「週3~5日」「週1~2日」「月1~2日」の合算)は68.8%で、平成24年度と比べほぼ横ばいとなっています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
少年期：68.3% (「毎日」～「月1~2日」の合算)	少年期：👉 横ばい

問 季節の行事食を作ったことがありますか。(〇印は1つ)

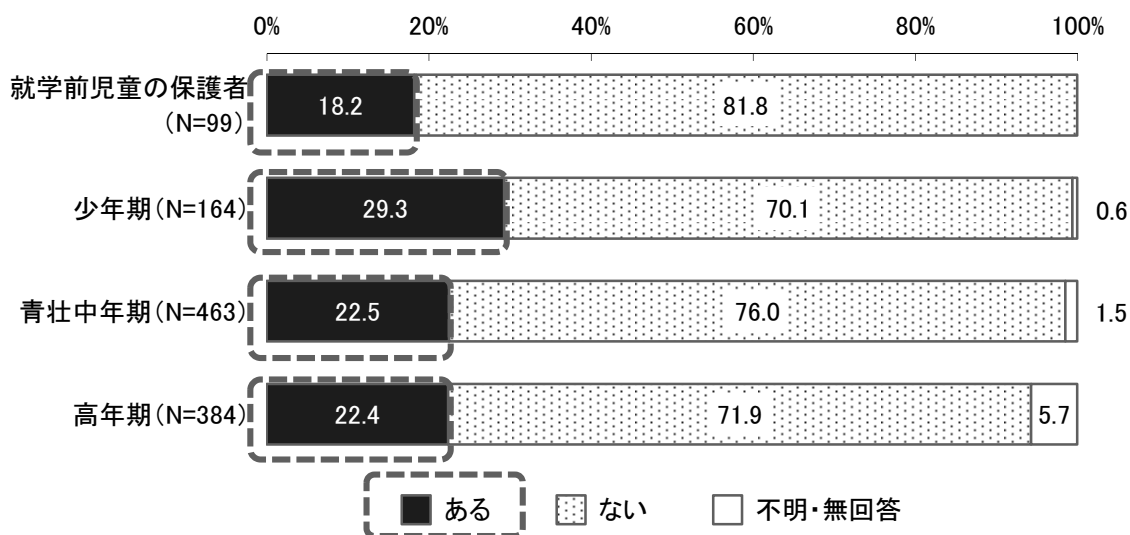
季節の行事食を作ったことがある者の割合は就学前児童の保護者が53.5%、青壮中年期が38.4%、高年期が32.6%となっています。平成24年度と比べ就学前児童の保護者は13.2ポイント、青壮中年期は9.9ポイント、高年期は10.7ポイント、それぞれ下降しています。



平成24年度現状値	平成24年度との比較
就学前児童の保護者：66.7%	就学前児童の保護者：👉 下降
青壮中年期：48.3%	青壮中年期：👉 下降
高年期：43.3%	高年期：👉 下降

問 農林漁業に親しんだり、農林水産体験をしたことがありますか。(○印は1つ)

農林漁業に親しんだり、農林水産体験をしたことがある者の割合は就学前児童の保護者が18.2%、少年期が29.3%、青壮中年期が22.5%、高年期が22.4%となっています。平成24年度と比べ就学前児童の保護者、青壮中年期及び高年期はそれぞれほぼ横ばい、少年期は3.6ポイント下降しています。



平成 24 年度現状値	平成 24 年度との比較
就学前児童の保護者 : 19.6%	就学前児童の保護者 : 横ばい
少年期 : 32.9%	少年期 : 下降
青壮中年期 : 21.7%	青壮中年期 : 横ばい
高年期 : 21.5%	高年期 : 横ばい

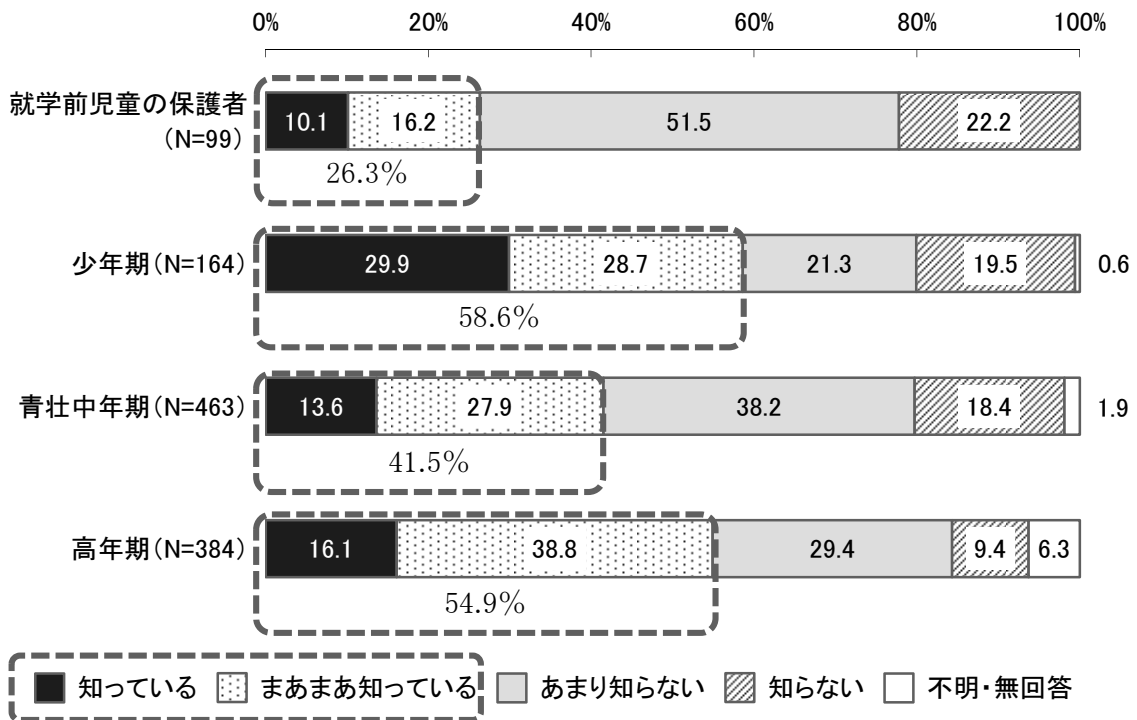


### (3) 環境に配慮した食の推進

	指標	対象者	第1次計画		第2次計画			推移
			H13 調査値	H24 目標値	H24 現状値	H34 目標値	H29 現状値	
食品廃棄	食品廃棄を減らすようにしている者の割合	就学前児童の保護者			82.4%	88.3%	86.8%	上昇
		青壮中年期			81.2%	86.9%	86.4%	上昇
		高年期			86.2%	96.2%	87.5%	横ばい
地産地消	県や町で採れる農産物を知っている者の割合	就学前児童の保護者			27.5%	54.0%	26.3%	横ばい
		少年期			66.4%	78.0%	58.6%	下降
		青壮中年期			41.0%	59.0%	41.5%	横ばい
		高年期			63.0%	75.0%	54.9%	下降
	県・町産の農水産物を率先して購入したいと思う者の割合	就学前児童の保護者			76.5%	82.4%	73.8%	横ばい
		青壮中年期			69.2%	80.3%	72.4%	上昇
		高年期			73.6%	82.5%	69.3%	下降

問 県や町で採れる農作物を知っていますか。(○印は1つ)

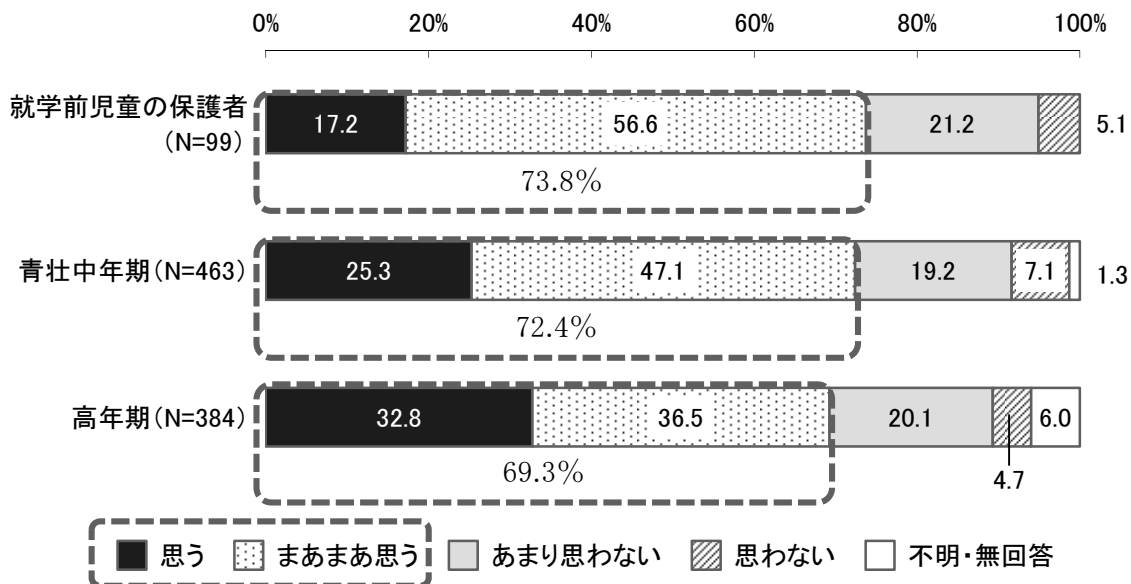
県や町で採れる農作物を知っている者の割合（「知っている」「まあまあ知っている」の合算）は就学前児童の保護者が 26.3%、少年期が 58.6%、青壮中年期が 41.5%、高年期が 54.9% となっています。平成 24 年度と比べ就学前児童の保護者及び青壮中年期はそれぞれほぼ横ばい、少年期は 7.8 ポイント、高年期は 8.1 ポイント、それぞれ下降しています。



平成 24 年度現状値	平成 24 年度との比較
就学前児童の保護者：27.5%（「知っている」「まあまあ知っている」の合算）	就学前児童の保護者： 横ばい
少年期：66.4%（「知っている」「まあまあ知っている」の合算）	少年期： 下降
青壮中年期：41.0%（「知っている」「まあまあ知っている」の合算）	青壮中年期： 横ばい
高年期：63.0%（「知っている」「まあまあ知っている」の合算）	高年期： 下降

問 県・町産の農水産物を率先して購入したいと思いますか。(〇印は1つ)

県・町産の農水産物を率先して購入したいと思う者の割合（「思う」「まあまあ思う」の合算）は就学前児童の保護者が 73.8%、青壮中年期が 72.4%、高年期が 69.3%となっています。平成 24 年度と比べ就学前児童の保護者はそれぞれほぼ横ばい、青壮中年期 3.2 ポイント上昇、高年期は 4.3 ポイント下降しています。



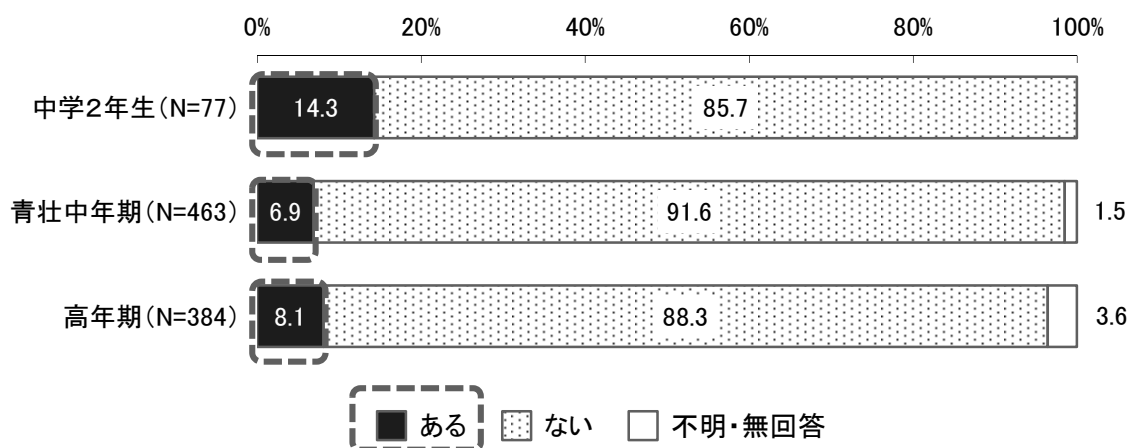
平成 24 年度現状値	平成 24 年度との比較
就学前児童の保護者：76.5%（「思う」「まあまあ思う」の合算）	就学前児童の保護者： 横ばい
青壮中年期：69.2%（「思う」「まあまあ思う」の合算）	青壮中年期： 上昇
高年期：73.6%（「思う」「まあまあ思う」の合算）	高年期： 下降

#### (4) 食育を支える取組

	指標	対象者	第1次計画		第2次計画			推移
			H13 調査値	H24 目標値	H24 現状値	H34 目標値	H29 現状値	
推進体制	★食生活改善推進員の増加	食生活改善推進員		—	23人	35人	16人	減少

問 食育に関わる講座やボランティアに参加したことがありますか。(○印は1つ)

食育に関わる講座やボランティアに参加したことがある者の割合は中学2年生が14.3%、青壮中年期が6.9%、高年期が8.1%となっています。



## 第2章 本町の指標取組結果と課題及び今後の方向性

指標の推移結果等から、本町の指標取組結果と課題及び今後の方向性を定めます。なお、「いきいき東郷 21 推進協議会」の委員からアンケートの結果に対する意見をいただいております、課題や方向性の記載にあたって参考としました。

また、指標の評価だけでなく、本町の健康づくりや食育推進に普段から取り組んでいる関連機関等へのヒアリング調査結果からも、本町の課題や方向性を定めています。

いきいき東郷 21（第2次）計画書の中で掲げた「取り組みの方向」、「関係機関の取り組み」及び「方針」をもとに進捗、目標値の達成状況等の検証を行った結果、大きな見直しはありませんでした。新たに「今後の方向性」として、課題を見据え、連携して行う必要のある取組を定めました。

### 1. 健康増進分野

#### (1) 運動・身体活動

	指標取組結果・課題	今後の方向性
子どもの運動習慣	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びの習慣がある3歳児の割合は下降。</li> <li>・放課に外で遊ぶ小学生の割合は横ばい。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園において親子でできる運動あそびを毎日実施している。</li> <li>・保育園でコーディネーショントレーニングを取り入れた運動あそび及び親子運動あそびを継続してきた事で、運動好きな子どもの増加と運動能力の向上という成果が上がってきている。</li> <li>・児童館において、親子あそびや幼児体育あそびの指導をしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子育てクラブ、健診、子ども向けの生活習慣病予防教室等で外遊びの大切さを伝えます。</li> <li>●子どもの運動習慣付けの啓発に加え、身近な公園などの情報提供をします。</li> <li>●保育園でのコーディネーショントレーニング<sup>※3</sup>を取り入れた運動あそびを継続します。</li> <li>●学校において放課の外遊びの指導を継続します。</li> </ul>
大人の運動習慣	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日平均30分以上歩く者の割合は、16～64歳で横ばい、65歳以上男性で減少、目標値と大きくかい離している。</li> <li>・65歳以上女性では、体力づくり・健康づくりに積極的に取り組む割合が上昇。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常生活の中で気軽に身体を動かすことができる場所や方法を周知します。(ウォーキングロード、トレーニングジム等)</li> <li>●体育協会各部との連携を進め、運動意識の向上と健康づくり・生きがいづくりを進めます。</li> <li>◎とうごう体操を推進するボランティアの増加を図ります。</li> </ul>

大人の運動習慣	<p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ とうごう体操の普及をしている。</li> <li>・ 地区でグラウンドゴルフ大会を実施している。</li> <li>・ 障がいをもった人たちへの取組が遅れている。</li> <li>・ 高齢者が身近な地域で参加できる集いの場の充実を図る必要がある。</li> <li>・ 介護予防教室を実施している。</li> <li>・ 運動習慣（1日 30 分以上の運動を週 2 回以上、継続して実施している）者の割合は、県のデータよりもやや低くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎東郷町・名古屋大学共同事業(サルコペニア<sup>※4</sup>予防)を推進します。</li> <li>●「男性のための料理・ウォーキング入門」を拡充します。</li> <li>◎家でできる体操としてとうごう体操の普及を推進します。</li> <li>◎地域のサークル等を対象とするとうごう体操出前講座を継続します。</li> <li>◎「いきいきとうごう健康マイレージ」を推進します。</li> <li>◎高齢者の健康増進のために老人憩いの家の機能をいこまい館に移し、運動や余暇の充実を図ります。</li> <li>●各地域での集いの場を増やします。</li> <li>●介護予防を中心とした体操教室を、地域の老人クラブ等を対象として継続します。</li> <li>◎ふじたまちかど保健室<sup>※5</sup>開設に向け、検討を進めます。</li> </ul>
---------	--	--

主な関係機関等：スポーツ推進委員、健康づくりリーダー<sup>※6</sup>、自治会、東郷町施設サービス(株)、保育園、児童館、小・中学校、長寿介護課、生涯学習課、健康課

※3 コーディネーショントレーニング：多様な動きの体験を通して、リズム感やバランス感覚、環境と自分との関係を把握し、身体の各部位を調整してなめらかに効率よく動かす運動で、コーディネーション能力向上に視点を置いたトレーニング。

※4 サルコペニア：加齢や疾患により筋肉量が減少し、筋力低下や身体機能の低下が起こること。

※5 ふじたまちかど保健室：藤田保健衛生大学の看護師等が実施する医療や健康、福祉、介護などの重度化防止のための相談、出前講座。

※6 健康づくりリーダー：愛知県や東郷町等が行う健康づくりの行事やイベントにおいて活動を支援するボランティアグループ。健康づくりリーダーバンク登録研修会の修了者が、健康づくりリーダーとして登録される。

## (2) 休養・こころの健康

	指標取組結果・課題	今後の方向性
育児	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児の父親のうち、子どもの話をよく聞く者と子どもと遊ぶ者の割合が上昇し、父親の育児参加が進んでいる。</li> <li>・子育てが楽しいと思う3歳児の母親の割合が上昇。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乳幼児の健やかな成長に資するよう、パパママ教室で父親の育児参加について話をします。</li> <li>◎なかよし教室の父親参観日を継続します。</li> <li>●児童館、子育て支援センター及びつどいの広場などの遊び場の周知を継続します。</li> <li>◎妊娠期から切れ目ない支援を充実させるため母子健康包括支援センター※7を設置します。</li> </ul>
子どもの睡眠	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前7時前に起きる3歳児の割合は横ばい。</li> <li>・1日7時間以上睡眠をとる者の割合は、小・中学生で共に上昇。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健診や児童館の育児相談で子どもの睡眠時間の重要性を周知します。</li> <li>●学校の授業で睡眠不足の悪影響を具体的に教え、現在の児童・生徒の生活習慣改善を促します。</li> </ul>
大人の睡眠・休養	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃とっている睡眠時間で休養をとれている者の割合は全体的に下降、目標値と大きくかい離している。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠で休養がとれていると感じている者の割合は、県のデータよりもやや低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講演会等で就寝前の飲酒やスマホなどの電子機器使用の弊害など、睡眠の質の確保のための知識の周知・啓発をします。</li> <li>●保健所の専門医の相談窓口を関係機関に広く周知するとともに、相談支援を充実します。</li> </ul>
子どものこころの健康	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談相手がいる中学2年生の割合が下降。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校にスクールカウンセラーと心の教室相談員が1名ずつ配置され、6つの小学校に2名のスクールカウンセラーが配置されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童・生徒に対して自分で解決できない悩みがあるときには、信頼できる大人に相談することを学校などで伝えます。</li> <li>●児童・生徒に対して各種相談窓口を周知させるとともに、相談支援を充実させます。</li> <li>●相談しやすい校内体制を充実します。</li> </ul>
大人のこころの健康	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味を持っている青壮中年期や高年期の割合が下降し、目標値と大きくかい離している。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働く人のメンタルヘルス対策が課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生涯学習課の各行事を充実し、趣味を持つことの大切さの啓発やきっかけづくりをします。</li> <li>●商工会内でストレスチェック制度※8を広くPRします。</li> <li>◎こころの体温計※9の周知を図ります。</li> <li>●高齢者の様々な相談に対応できるよう、関係機関や専門職と連携して相談支援を行います。</li> </ul>

主な関係機関等：東郷町商工会、瀬戸保健所、小・中学校、長寿介護課、こども課、学校教育課、生涯学習課、健康課

※7 母子健康包括支援センター：妊娠期から子育て期にわたるまでの母子保健や育児に関する様々な悩み等に円滑に対応するため、保健師等が専門的な見地から相談支援等を実施する事業。

※8 ストレスチェック制度：労働者のメンタルヘルス不調の未然防止を目的とする「職業性ストレス簡易調査票」を用いたチェック制度。

※9 こころの体温計：パソコンや携帯電話を利用して気軽にメンタルヘルスチェックができるシステム。



### (3) たばこ・アルコール

	指標取組結果・課題	今後の方向性
たばこの影響の認知度	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たばこが体に及ぼす影響の認知度について、半数以下のものが7項目ある。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校でたばこの悪影響を学んでも、記憶が薄れる。また、学校で教わっていない年代の人も多いと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校において、たばこが体に及ぼす影響について引き続き教育します。</li> <li>●ポスター掲示やイベントを通じて啓発します。</li> <li>●家庭に対して、受動喫煙のリスクを、具体的に周知・啓発します。</li> <li>●禁煙治療がより身近なものとなるよう、医師会・薬剤師会と連携します。</li> <li>●禁煙治療を実施している医療機関を周知します。</li> <li>●受動喫煙防止施設の認定を継続します。</li> </ul>
飲酒・喫煙の経験	<p>【アンケート等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦であった者のうち、喫煙していた割合は上昇、飲酒していた割合は下降。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●妊娠中の飲酒、喫煙の影響を母子健康手帳発行時やパパママ教室で啓発します。</li> </ul>

主な関係機関等：医師会、薬剤師会、瀬戸保健所、小・中学校、健康課

#### (4) 歯・口腔の健康

	指標取組結果・課題	今後の方向性
歯や口腔状態	<p>【アンケート等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・う蝕に罹患している3歳児の割合は上昇、小学5年生の割合は下降。</li> <li>・中学2年生のDMF指数<sup>※10</sup>は減少。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虫歯による健康格差を縮小するため、永久歯が生えてくる時期からフッ化物洗口<sup>※11</sup>を実施するとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乳幼児健診、子育てクラブ及びお誕生日相談における歯科指導を強化します。</li> <li>◎歯科衛生士訪問事業を継続します。</li> <li>●虫歯予防の生活、ブラッシング指導等、小・中学校での啓発を継続します。</li> <li>◎保育園でのフッ化物洗口を実施します。</li> <li>●歯磨きの方法等、正しい歯・口腔のケア方法の情報提供を行います。</li> </ul>
	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8020運動<sup>※12</sup>を知っている青壮中年期の割合は横ばい、高年期の割合は下降しており、目標値と大きくかい離している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●8820・8020表彰を継続します。</li> <li>●8820・8020運動を歯科医師会とともに推進します。</li> </ul>
定期的な歯科健診	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけの歯科医がいる、または定期的に歯科の健康診査を受ける青壮中年期の割合は大きく上昇しており、予防歯科ケア等が大切であると考える人が増えている。</li> <li>・高年期の歯への意識は青壮年期と比較して高いが、かかりつけ歯科医がいる者が8割程度、定期的な歯科の健康診査を受ける者が6割程度と横ばいで、目標値と大きくかい離している。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの保護者の中には、歯科健診への関心が低い人もおり、保護者の関心を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎節目検診の対象年齢を拡大します。</li> <li>●母子健康手帳交付時に健診の受診勧奨をします。</li> <li>●歯や口腔の健康と生活習慣病に深い関連があることを周知し、健診受診の動機を高めます。</li> <li>●外出できない高齢者等のため、在宅歯科医療のよりよいあり方の検討を進めます。</li> <li>●親子で一緒に歯科健診を受診するよう啓発します。</li> <li>●歯科に関心が低い親に対して、個別的な関わりを増加します。</li> </ul>

主な関係機関等：歯科医師会、瀬戸保健所、保育園、小・中学校、健康課

※10 DMF（ディーエムエフ）指数：永久歯の虫歯の経験を表す用語で、処置を必要とする虫歯＝D、むし歯が原因で抜いた歯＝M、むし歯の処置が済んでいる歯＝Fで表す。

※11 フッ化物洗口：フッ化物水溶液を用いてうがいを行い、虫歯を予防する方法。

※12 8020（ハチマルニイマル）運動：厚生労働省が提唱する、80歳になっても自分の歯を20本以上保つ運動。

## (5) 健康管理

	指標取組結果・課題	今後の方向性
特定健診	<p>【アンケート等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康診査の受診率は上昇。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国民健康保険の医療費分析などから、本町は同規模保険者よりも糖尿病、脂質異常症での外来医療費が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小・中学校のうちから、生活習慣病予防の指導の中にがん予防の内容を増やし、正しい知識を獲得させ、望ましい生活習慣を考えさせます。</li> <li>◎医療機関でのがん検診に節目料金<sup>※13</sup>を設けます。</li> </ul>
がん検診	<p>【アンケート等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診の受診率は、乳がん以外の4つの検診で上昇しているものの、それぞれ目標値と大きくかい離している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健(検)診を受けない働き盛りの青壮中年期の者について、未受診理由をもとに、掘り下げた対応を図ります。</li> </ul>
薬物の危険性	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬物の危険性を知っている者の割合は、小学5年生で横ばい、中学2年生で下降し、目標値と大きくかい離している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小・中学校における薬物乱用防止教室等を通じて、薬物に対する危機感を持たせます。</li> <li>●警察関係者や学校薬剤師等と連携し、学校の授業の中で薬物の危険性を周知します。</li> </ul>
子どもの安全	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>休日及び夜間の小児救急医療機関を把握している母親の割合は下降。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●診療の場面、健診及び子育てクラブでの周知を継続します。</li> </ul>
	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事故防止のため家の中を工夫している6か月児未満の母の割合は下降し、目標値と大きくかい離している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子育てクラブや健診等で家の中の事故について啓発します。</li> </ul>
	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを安心して遊ばせるための施設、遊び場があると思う親の割合は横ばい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童館、つどいの広場、子育て支援センター及び公園の紹介を窓口や健診の場などで行います。</li> </ul>

主な関係機関等：医師会、薬剤師会、保育園、小・中学校、保険医療課、健康課

※13 節目料金：40歳、50歳、60歳の人に対して適用する料金（一般料金の約半額）。

## (6) 栄養・食生活

	指標取組結果・課題	今後の方向性
子どもの栄養状態	<p>【アンケート等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肥満状態（ローレル指数<sup>※14</sup>145以上）の小学5年生の割合は横ばい。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体計測後に成長曲線や肥満度曲線を作成し、担任や保護者に働きかけている。</li> <li>・早寝・早起き、朝ごはんやバランスの良い食事、健康的な体づくり等を、保健だよりを通して啓発している。</li> <li>・生活習慣病予防について、園だより、食育だよりを通じた啓発を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●低学年のうちから、栄養・健康教育に継続的に取り組みます。</li> <li>◎学校において生活習慣病予防に対する指導を、がん教育を含め強化します。</li> <li>◎子ども向けの生活習慣病予防教室を継続します。</li> </ul>
大人の栄養状態	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肥満状態（BMI<sup>※15</sup>25以上）の者の割合は、45～64歳男性で上昇、45～64歳女性及び65～74歳男女で横ばい。</li> <li>・適切な食事量や内容を把握している高年期の割合は横ばい。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康保険以外の被保険者に対して、アプローチできる場がほとんどない。</li> <li>・医師会主催の東郷町民健康講座（年2回）を実施し、町民の健康に対する意識を高め、健康増進を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国民健康保険加入者に対しては、特定健診・特定保健指導の受診を勧奨するとともに、壮年期の栄養についての意識啓発を行います。</li> <li>●特定保健指導や健康教室の参加者に対し、適切な食事量についての情報提供を行います。</li> <li>●「みんなの栄養相談」を充実します。</li> <li>●東郷町民健康講座を継続します。</li> <li>●介護予防教室でバランスのとれた食事などの情報提供を行います。</li> <li>●栄養相談及び食育推進協力店登録事業<sup>※16</sup>を継続します。</li> </ul>

主な関係機関等：医師会、瀬戸保健所、保育園、小・中学校、給食センター、長寿介護課、保険医療課、健康課

※14 ローレル指数：児童・生徒の肥満の程度を表す指数。

※15 BMI：体格指数のことで体重（kg）÷身長（m）÷身長（m）で算出される。

※16 食育推進協力店登録事業：飲食店における栄養成分表示を始め、食育や健康に関する情報を提供する施設を「食育推進協力店」として登録し、県民への健康づくりに関する情報発信等に協力してもらう制度。

## 2. 食育分野

### (1) 食を通じた健康づくり

	指標取組結果・課題	今後の方向性
朝食	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝食をとる者の割合は、小学5年生、中学2年生及び青壮中年期で横ばい。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝食の摂取率はおおむね横ばいか増加傾向であるが、中身についての把握ができておらず、実際食事の内容が偏っている児童・生徒もいると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝食をとる習慣を生涯にわたってつけるため、保育園や児童館での啓発等、早期からの取組を継続します。また、子どもが朝食を食べるよう、保護者へ働きかけます。</li> <li>●朝食をとることの大切さを幅広い年齢層に周知します。</li> <li>●朝食の栄養バランスなど、摂取率だけでなく食事内容の把握も進めます。</li> </ul>
食育の認知度	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食育<sup>※17</sup>の認知度について、就学前児童の保護者、青壮中年期及び高年期で上昇、少年期で横ばい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食生活改善推進員による保育園及び幼稚園児への指導を継続します</li> <li>●就学前から小・中学校にかけて、食育に関する取組を継続します。</li> </ul>
食事の食べ方	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よく噛んで味わうなどの食べ方を意識している者の割合は、就学前児童の保護者と少年期で横ばい、青壮中年期で上昇、高年期で下降。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給食センターからの学校訪問時、園児や児童・生徒に野菜を残す、箸が上手に使えないなどの課題がみられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●よく噛んで味わうなどの食べ方が、生活習慣病や誤嚥性肺炎の予防につながることを周知します。</li> <li>●給食訪問時に箸の正しい使い方を伝えたり、野菜摂取の大切さを紙芝居や生の野菜を使用して伝える取組を継続します。</li> </ul>

主な関係機関等：在宅栄養士会、食生活改善推進員<sup>※18</sup>、保育園、児童館、小・中学校、給食センター、健康課

※17 食育：様々な経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

※18 食生活改善推進員：「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに生涯における健康づくり活動を、食を通して地域で推進しているボランティア。

## (2) 食で育む豊かなこころづくり

	指標取組結果・課題	今後の方向性
食事の楽しみ	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族と一緒に食事をする者の割合は、3歳児と小学5年生では高いが、中学2年生では下降。</li> <li>・食事の時間が楽しいと思う者の割合は、全ての年代で横ばい。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学2年生の生徒だけではなく、保護者にも働きかけをするとよい。行政だけでなく企業の努力も必要ではないかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもと一緒に食事をするよう、保護者への働きかけを強化します。</li> <li>●親子で作ることができるメニューの紹介や子どもが興味を持つような料理教室を開催します。</li> <li>●ワークライフバランスを推進します。</li> </ul>
食の体験	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林漁業に親しんだり、農林水産体験をしたことがある者の割合は全体的に低い。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境的な面から林業や漁業に触れる機会が少ないため、指標の値が低いのではないかと。</li> <li>・ふるさと農園<sup>※19</sup>及びとうごう農学校<sup>※20</sup>の参加者は盛況であるが、再受講者の増加などの課題がある。多くの方に参加の機会を設ける工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●とうごう農学校や農協の親子教室、学校での授業等と連携し、農業に触れることができる内容を含んだ行事や教室を実施します。</li> <li>◎とうごう農学校は平成31年度を目処に事業の抜本的な見直し(新規就農者の育成強化)を行います。</li> </ul>
食文化の継承	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の行事食<sup>※21</sup>を作ったことがある者の割合は全ての年代で下降。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・核家族化が進む中で、伝統料理や郷土料理<sup>※22</sup>の継承が課題になっている。</li> <li>・地元で採れる食材を知り、食べ物へ親しみを持たせることで、残さず食べる意識を高め、食べ物への感謝の気持ちを育くむ必要がある。</li> <li>・地区でふれあいもちつき大会を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校や保育園、児童館において給食や調理実習で、季節の行事食にふれ、学ぶ機会を設けます。</li> <li>●料理教室で伝統料理や郷土料理を紹介します。</li> <li>●食生活改善推進員や健康課の料理教室で季節の行事食を紹介します。</li> </ul>

主な関係機関等：JA あいち尾東、東郷町商工会、在宅栄養士会、食生活改善推進員、自治会、保育園、児童館、小・中学校、給食センター、産業振興課、健康課

※19 ふるさと農園：初心者向け貸し農園。

※20 とうごう農学校：多様な農業者の育成を進め、農業の活性化を目的とした講座。

※21 季節の行事食：おせち、お雑煮、恵方巻、ちらし寿司等。

※22 伝統料理や郷土料理：おこしもの、鬼まんじゅう、五平餅、きしめん等。

### (3) 環境に配慮した食の推進

	指標取組結果・課題	今後の方向性
食品廃棄	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食品廃棄を減らすようにしている者の割合は、就学前児童の保護者と青壮中年期で上昇、高年期で横ばい。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育園や学校での環境教育により、環境への意識が高まっていることが感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●エコ料理教室などで啓発します。</li> </ul>
地産地消	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県や町で採れる農産物<sup>※23</sup> <sup>※24</sup>を知っている者の割合は、全体的に下降傾向。</li> <li>県や町で採れる農産物を知っている就学前児童の保護者は、他の年代に比べて特に少なく、知識を得る場がないことがうかがえる。</li> <li>県・町産の農水産物を積極的に購入したいと思う者の割合は、全体的に横ばい。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給食を通じて、県や町の食材の紹介は行っているが、6割程度の認知である。</li> <li>町産の野菜や米の消費拡大のため、給食センターで使用できる農産物の種類・量を確保する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育園や児童館、小・中学校で県・町産の農作物を学ぶことができる場を設けます。</li> <li>●給食に使用した県・町産の食材の献立表によるアピールを継続します。</li> <li>●健康課や食生活改善推進員の教室で県・町産の野菜を使用し、紹介をします。</li> <li>●県・町産の食材を使用した給食回数の増加のため、農協と調整しながら年間スケジュールを立て、確実に地産地消を進めます。</li> <li>●東郷軽トラ市等で生産者と消費者の交流機会を増加させます。</li> </ul>

主な関係機関等：JA あいち尾東、食生活改善推進員、保育園、児童館、小・中学校、給食センター、産業振興課、健康課

※23 県産の農産物：キャベツ、いちご、はくさい、れんこん、みかん等。

※24 町産の農産物：白菜、いちじく、いちご、すいか等。



#### (4) 食育を支える取組

	指標取組結果・課題	今後の方向性
食生活改善推進員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活改善推進員は平成 24 年（23 人）から平成 29 年（16 人）にかけて 7 人減少。</li> </ul> <p>【ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の大切さが求められる現代において食生活改善推進員の増加、スキルアップが必要となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●食生活改善推進員養成講座の内容を充実させます。</li> <li>●退会者を増やさないような関わり方を検討します。</li> </ul>
推進体制	<p>【アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育に関わる講座やボランティアに参加したことがある者が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●身近で食育の担い手として関わる可以增加する場を増やします。</li> <li>●食育推進協力店登録事業を推進します。</li> </ul>

主な関係機関等：食生活改善推進員、瀬戸保健所、健康課

---

**いきいき東郷 21（第 2 次）  
中間評価 結果報告書**

平成 30 年 3 月

発 行 愛知県愛知郡東郷町

編 集 東郷町 健康部 健康課

---